

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県

自治体名：宮城県

担当課名：保健体育安全課

電話番号：022-211-3667

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	728,229km ²
人口	2,244,807人
公立中学校数	125校 ※仙台市除く
公立中学校生徒数	29,495人 ※仙台市除く
部活動数	1,158部活 ※仙台市除く
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

令和5年3月に「学校部活動と新たなクラブ活動のガイドライン第1版」を策定し、宮城県の方針を示した。ガイドラインでは、令和5年度を移行検討期間とし、地域移行に向けた準備をするため、協議会の設置等を進めるための期間とした。令和6年度からは、改革推進期間とし、準備が整った自治体から順次地域移行を推進していく期間としている。本県は、令和6年度段階で、12市町村が地域移行を開始している。

課題としては、関係者の理解や持続可能な収支構造の構築、指導者の確保が挙げられている。

宮城県では、令和6年度は「学校に対する働き

かけ」をテーマの一つとし、「学校向けQ&A」や市町村担当者が学校や関係者に対しての説明に活用するための説明資料を作成した。

宮城県が直接所管する県立中学校においては、令和6年度から実施校を2校に増やした。令和8年度には休日の部活動を行わず、地域の活動に展開する予定である。学区が広域になるため、他市町村の状況を鑑みて、持続可能な体制整備を進めていく。

協議会等設置状況

	令和5年度	令和6年度
設置済み	13	22
設置予定	15	10
予定なし・未定	6	2

休日の部活動地域移行の実施状況及び実施予定

	令和5年度	令和6年度
全ての学校・一部の部活動	4	6
一部の学校・一部の部活動	2	6
実施していない	28	22

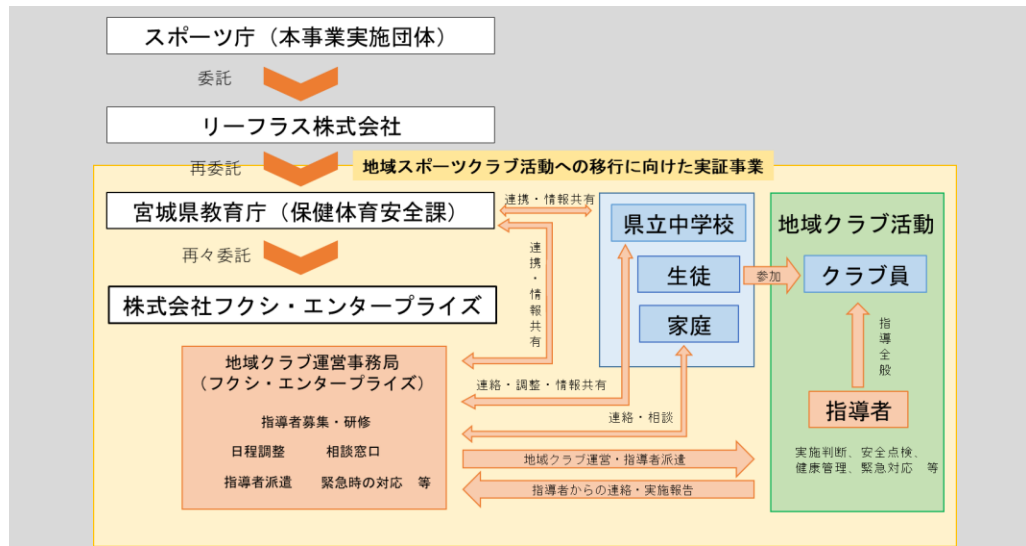
休日の部活動を移行する目標年度

目標年度を決めている				決めていない・未定
15				19(1)
令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和9年度以降	※()内の数字は、目標年度を決めず、実施する市町村の数
5	7	2	1	

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・保健体育安全課 → 部活動地域移行全体に関するもの、主に運動部に関するもの
- ・生涯学習課 → 主に文化部活動に関するもの、移行後の体制に関するもの
- ・教職員課 → 主に服務制度に関するもの

◎首長部局

- ・企画部スポーツ振興課
→ 移行後の体制整備に関するもの、指導者の育成に関するもの

年間の事業スケジュール

令和6年4月24日	学校部活動の地域移行に係る担当者説明会
令和6年6月	第1回市町村実態調査
令和6年8月2～3日	先進地域視察（埼玉県白岡市）
令和6年9月	第2回市町村実態調査
令和6年9月9日	部活動地域移行フォーラム
令和6年11月6日	地域文化クラブ研修会
令和6年12月6～7日	先進地域視察（長野県千曲市）
令和7年1月17日	部活動地域移行研修会
令和7年1月31日	公立中学校向け部活動の地域移行のQ&Aの提供
令和7年2月12日	学校部活動の地域移行協議会
令和7年3月（予定）	仙台二華中学校分科会・古川黎明中学校分科会 第3回市町村実態調査

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	6 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	15人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※部活動の種目とは異なる（※）を記入	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	
古川黎明中学校 陸上クラブ		陸上競技	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時 14時～16時	1年生 5人 2年生 15人	令和6年12月 ～令和7年2月	古川黎明中学校	1人	4人	年会費 2000円	
古川黎明中学校 バスケットボールクラブ		バスケットボール	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時	1年生 3人 2年生 7人	令和6年12月 ～令和7年2月	古川黎明中学校	1人	4人	年会費 2000円	
古川黎明中学校 バドミントンクラブ		バドミントン	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時 14時～16時	1年生 7人 2年生 1人	令和7年1月 ～令和7年2月	古川黎明中学校	4人	4人	年会費 2000円	
仙台二華中学校 陸上クラブ		陸上競技	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時	1年生 3人 2年生 11人	令和6年12月 ～令和7年2月	仙台二華中学校	4人	4人	年会費 2000円	
仙台二華中学校 ソフトテニスクラブ		ソフトテニス	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時	1年生 3人 2年生 5人	令和6年12月 ～令和7年2月	仙台二華中学校	4人	4人	年会費 2000円	
仙台二華中学校 バレーボールクラブ		バレーボール	月 2 回 週 1 回（土・日・祝）	9時～12時 13時～16時	1年生 3人 2年生 3人	令和6年12月 ～令和7年2月	仙台二華中学校	1人	4人	年会費 2000円	

③その他、体験会

- 地域クラブ活動各クラブの初回は体験会として実施

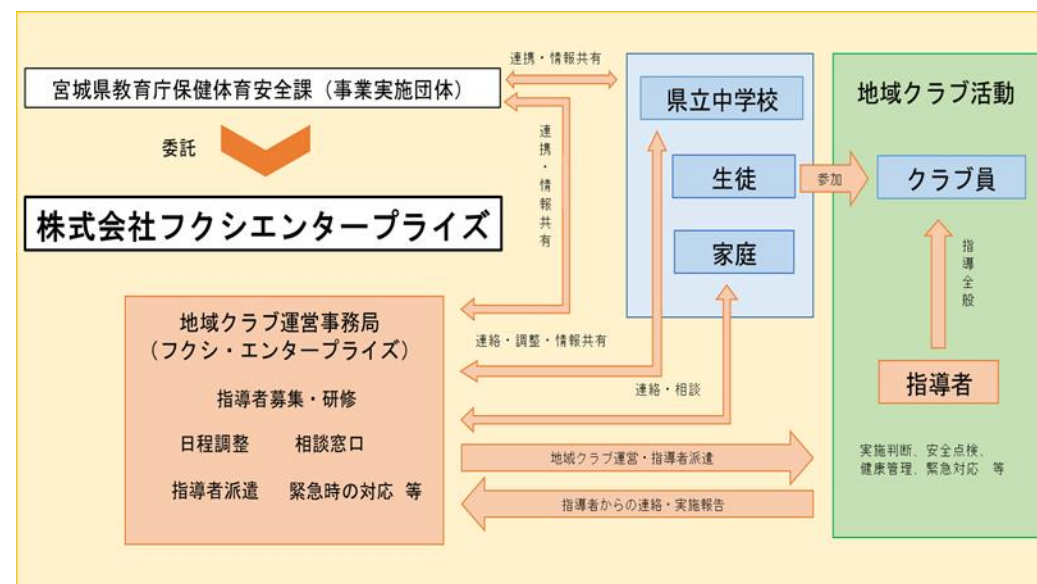
2.実証内容と成果

主な取組例

●宮城県地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	古川黎明中学校 陸上・バドミントン・バスケットボール 仙台二華中学校 陸上・バレーボール・ソフトテニス
運営団体名	株式会社フクシ・エンタープライズ 東北支店
期間と日数	古川黎明中：12月14日～2月23日 月2回程度 仙台二華中：12月1日～2月22日 月2回程度
活動場所	古川黎明中学校 仙台二華中学校
主な移動手段	自家用車・公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	一律：2,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業責任者 2名
役割：活動における管理者として、自治体、学校との連携を行う
- 事業担当者 1名
役割：活動における現場責任者として、講師、保護者との連携を行う
- 運営補助者 2名
役割：現場責任者の補助として運営を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・広域的なコーディネーター活動を行う事業担当者を1名配置し、各学校、講師、連絡調整を行う。
- ・参加者管理、参加者・指導者への連絡、活動日時調整、SNS等アプリ活用する。

取組の成果

- ・事業担当者を配置したことにより、各関係各所、保護者対応等の連絡調整やコーディネーター業務を円滑に行うことができた。
- ・SNS等のアプリの活用により、参加者及び保護者への連絡調整、参加登録手続き等、効率的に行うことができた。

項目	概要
1 保護者様のメールアドレスから【isc_fap@gmail.com】へメールを送信	・生徒の第1回目の地域クラブ活動に参加するために、体験会前同意書の写真を添付の上お送りください。 (体験会への参加を希望しない方は不要となります。) ・お預かりしたメールアドレスは、後に緊急連絡をするためのツールとして活用させていただきます。 ・体験会前同意書が確認とれ次第、体験会時のスポーツ保険に加入いたします。忘れずにお送りください。
2 公式LINEへの登録	・体験会及び正式な活動の際に使用いたします。事前に登録をお願いいたします。 ※公式LINE登録は、保護者及び生徒ともにご登録を推奨いたします。
3 事務局より、講師情報及び活動日を通知(公式LINEにて通知)	・公式LINEより、講師情報・地域クラブ活動の活動日を通知いたします。 ※生徒の第1回目の地域クラブ活動参加日を体験会とさせていただきます。 ※各種目の講師が確定でき次第、順次情報を通知いたします。
4 第1回目の地域クラブ活動体験会に参加	・持ち物については、必要な道具一式をご持参ください。 ・体験会終了後に参加同意書(本登録用QRコード記載)を配布いたします。 ※本登録をしないと判断した場合、事務局へ参加しない旨をメールにてお知らせください。メールが聞き次第、体験会同意書を破棄いたします。

項目	概要
5 参加登録及び参加料の提出	・第2回目以降の地域クラブ活動へ参加をご希望する方は、下記手順にてお願いします。 ①体験会時に配布した「登録のご案内」記載のQRコードから本登録(グーグルフォームよりお願いします)。 ●スポーツ保険加入の手続き上、本登録は活動実施日の3日前(土日祝日除く)までにご登録ください。 ②本登録後の活動日に参加料2,000円をご提出。 ●事務局スタッフ及び指導者へお渡しください。 ③引換えに登録証を配布(名刺サイズのカード)。 ●登録証はクラブ活動に登録した証として使用いたします。 ※クラブ活動の参加は保険加入が必須となります。本登録が確認でき次第保険に加入いたします。その後事務局より加入完了通知をメールにお送りいたします。
6 地域クラブ活動に参加	・生徒は活動日に都度登録証をご持参し、指導者へお渡しください。活動終了後、登録証はお返しいたします。 ・活動日については、公式LINEより通知された情報をご確認ください。 ・諸事情等により、クラブ活動を【休み】とする場合は公式LINEより通知いたします。

出典:令和6年度宮城県地域スポーツクラブ体制整備実証事業保護者マニュアル

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・各地域クラブを巡回し、講師から課題等のヒアリング・助言等を実施。
- ・各学校の顧問と調整等を実施し、連携、スムーズな運営に努めた
- ・学校、講師、参加者、保護者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- ・学校区域内の講師確保を目指すことにより、持続的なクラブ運営体制の構築を図る。
- ・コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の採用後は、地域クラブ事務局から指導者に対して中学生に対する適切な指導についての知識や地域クラブ活動指導者として果たすべき役割について理解を深める研修、AED研修等を実施し、地域クラブ活動に従事していただきます。

指導者研修内容及び事故発生時緊急時対応策の内容

●緊急対応マニュアルについて（右記載）

事故発生時の対応については、右図の緊急対応マニュアルを講師と随時確認。

●心肺蘇生法について（採用時の指導者研修内に実施）

講師がいつでも実施方法を確認できるよう、動画サイトで閲覧できる体制を構築。

（日本赤十字社の動画）

https://youtu.be/NGNaD_UY-A4?si=ak6-pWyXD9idzE1X

●AEDの置き場所について

各校AED設置場所を写真、地図を記載した資料を講師へ配布。

講師への緊急時対応策の周知

・随時、指導中の緊急時に備え、緊急時対応策の理解を深めることを徹底。

・常に緊急対応策を確認できるように、SNS等アプリで発信。

・右図の緊急対応マニュアルを随時確認。

事故発生時の対応



事故等による傷病者を発見した際には、第一発見者は、被害児童生徒等の症状を確認し、近くにいる指導者やクラブ員(生徒)等に応援を要請するとともに、被害等の状況に応じて、速やかに止血、心肺蘇生などの応急手当を行います。



今後の課題と対応方針

・緊急時対応策、AED使用についての理解を深めるために、研修会を全講師を対象に開催するだけでなく、講師が実施方法を随時確認できる環境を構築し、常に意識付けをしていくことが、参加生徒の安全を担保できる運営につながる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

国が進める地域移行は、これまで学校部活動が担ってきた生徒の育成を、地域の指導者や地域の活動を通して子どもたちを育てる環境に移行する目的がある。

県立中学校では、休日の部活動を地域クラブ活動へ段階的に転換するため、休日の部活動運営を全て外部指導者に任せる『地域クラブ活動』を目指す。

地域クラブ活動を通して、外部の指導者から専門的な指導を受けたり、地域の指導者と関わり合いながら、健やかな身体と豊かな人間性を身に付けることに寄与することを目指す。

活動の詳細

参加人数	66 人	指導者数	15人
具体的な内容	古川黎明中学校、仙台二華中学校それぞれ地域クラブの運営（1 種目 1 クラブ）及び統括コーディネーターの配置等		
参加者の声	- 競技種目に特化した指導者の配置により、より専門な練習内容を経験しスキルアップした - 通常部活動よりも、多くの練習メニューを実施することができた - 各競技種目の基礎となる技術・技能を深く学び、習得につなげられた		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- 参加者・保護者等の送迎の負担、施設使用料の負担、講師の移動等の負担を軽減するために、学校体育施設を中心に活動を実施。

取組の成果

- 生徒の安全と保護者の安心に繋がられた。
- 使用する備品は、通常部活動で使用しているものを活用するため準備、片づけがスムーズにでき参加者の負担軽減に繋がられた。
- 少しでも受益者負担を軽減することができた。
- 毎回、練習会場が統一されているため、学校・コーディネーター・参加者（保護者）間の連絡の行き違いがなかった。

今後の課題と対応方針

屋外の競技種目は、季節、天気、気温、グラウンドコンディション等によって実施回数に影響を及ぼすことが可能性があるため、屋内競技種目とスケジュールの調整を行い、予備として屋内体育施設も確保する必要がある。
屋内、屋外競技種目に共通して、夏時期（6～9月）は、WBGT測定器を活用し定期的な測定を実施し、活動場所までの移動手段を含めて熱中症の対策が必須と考えられるため、講師、学校側とも協議し、参加者が十分に活動できる環境づくりに努めます。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、運営団体が変わったことが大きな影響となった。特に指導者の確保には苦慮し、予定通りに事業を開始することができなかった。

運営団体と学校、運営団体と教育委員会、学校と教育委員会等、全ての関係者の共通理解にも苦慮した部分があった。学校とクラブで重なり合う部分、重なり合わない部分のそれぞれのアプローチに対する合意形成を図ることが非常に難しいものもあった。指導者を派遣して終わりということではなく、令和8年度以降、中学校の部活動を行わなくなったことを想定して、それぞれの学校で持続できる体制を整えていく必要がある。

特に費用負担については、保護者が納得して参加できる金額の設定と、指導の質が必要となる。また、これまでの部活動では発生しなかった費用が発生することに対する理解を得ることが非常に重要だと考える。令和7年度は、令和8年度以降をより想定した構造で地域クラブ活動を運営していく。

●成果の評価

○指導者の確保

実施できなかった種目については、大きな課題である

○受益者負担の設定

保護者が納得できる負担額の設定が必要

○関係団体との連携

学校と運営団体の連携強化が必要

○関係者の理解

すべての関係者の理解促進の必要性

●今後に向けて

○指導者の確保は今後も継続して行う必要がある

→ 令和8年度以降も地域の指導者として継続できるよう指導する費用性

○受益者負担の設定

→ 令和8年度以降（月会費5～6,000円）を想定した金額や内訳の設定

○関係団体との連携

→ 学校と地域クラブ活動の連絡調整の方法
学校施設開放のルール作り

○関係者の理解

→ 教職員、保護者説明会の継続

2.実証内容と成果③

取り組み事項

- 生徒が地域クラブ活動に参加する第1回目の練習を体験会として実施した。理由としては、生徒・保護者に講師の指導方針・活動内容に同意を得た上で、継続して地域クラブ活動に参加するためである。
- 地域クラブ活動参加前に参加者・保護者にSNS等アプリを活用した公式アカウントページにご登録いただき、活動日時、緊急時連絡等を事務局リアルタイムで配信・連絡等を実施。

取組の成果

- 練習第1回目を体験会としたことにより、指導者の指導方法や人間性等を確認できた上で、登録の有無を選択する取り組みは、保護者に安心感を与え、信頼獲得に繋がった。

令和6年11月～ 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域クラブ活動 開催

国が進める地域移行は、これまで学校部活動が担ってきた生徒の育成を、これからは地域の指導者や地域の活動を通して子供たちを育てる環境に移行するものです。また、順は段階的な移行措置として、令和8年度中にまずは休日の部活動から地域の活動に移行することとしています。

県立中学校では、まずは休日の部活動を地域クラブ活動に段階的に転換するため、休日の部活動運営をすべて外部の指導者に任せる「地域クラブ活動」を実施します。

地域クラブ活動を通して、外部の指導者から専門的な指導を受けたり、地域の指導者と関わり合いながら、自分がやりたい活動を行うことができます。

児童、この休日の活動に参加いただき、休日の活動においても健やかな身体と豊かな人間性を身に付けて欲しいと思います。多くの参加をお待ちしております。

今年度は現部活動と同種目で地域クラブ活動を実施!

仙台二華中学校 地域クラブ活動実施種目		
陸上競技	ソフトテニス	バレーボール

地域クラブ活動の詳細

- 活動日は、毎週土日祝日(休日)の内、1回実施を予定しています。
- 実施日や時間等に関する事項との連絡については、公式LINEで連絡いたします。
- 公式LINEへの登録をお願いします。クラブ活動中の突発的な中止や連絡も、公式LINEを通じて行いますので、必ず登録ください。
- 持ち物については、部活動と同様、必要な道具一式をご持参ください。

緊急時の連絡に使用する為、保護者の指導のメールアドレスから「sec.fep@gmail.com」へメールをお送りください。

その際、下記、初回体験会参加の旨をお知らせください。

※緊急時は、下記記載の運営事業者が対応いたします。

運営事業者
株式会社フクシ・エンタープライズ東北支店
Mail: sec.fep@gmail.com
TEL: 080-3308-2865
担当: 豊枝 渡部 後藤

初回体験会同意書
フクシ・エンタープライズ東北支店 宛
私は、地域クラブ活動の内容を全て理解し、活動へ参加いたします。

令和 年 月 日	生徒氏名
所属部活	保護者名
住所	年齢 令和6年4月1日現在の年齢を記入
生年月日(西暦)	学年
緊急連絡先	続柄

1. ご記入いただいた個人情報は、当事業のみで使用いたします。
2. 上記同意書をご記入後は写真をメール添付してください。
3. 初回体験会日の3日前までに提出ください。

【参加者初回体験会案内兼参加同意書】

2.実証内容と成果③

取り組み事項

- SNS等アプリを活用し、参加申込書・同意書の電子化し、PC、スマートフォンで一括管理を実施した。
- 参加者名簿を電子化し、指導者への参加者情報の共有も電子媒体のみとした。

取組の成果

- 電子化することにより、生徒が登録用紙（個人情報）をクラブに持参することが無くなったことにより、トラブル回避に繋がった。
- 参加者名簿の電子化により、事務局、指導者間の情報共有も対面せずに電子媒体で円滑に行えた。

令和 年 月

各位

株式会社フクシ・エンタープライズ東北支店
地域スポーツクラブ活動体制整備事業事務局

地域スポーツクラブ活動体制整備事業登録のご案内

拝啓 晩秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。また、当整備事業に多大なるご理解を賜り、感謝申し上げます。さて、当事業におきまして、本登録の流れにつきましてご案内申し上げます。下記内容をご確認いただきまして、本登録、お申し込みを頂けますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 手 順

1) 下記 QR コードより本登録をお願いいたします。
※本登録は、2回目クラブ活動開始日の **3日前まで** にお願いたします。
2) 2回目クラブ活動参加時にご負担金 **2,000円** を徴収いたします。
※本登録は①②で終了となります。終了後は登録証をお渡しいたします。
登録証はクラブ活動時使用いたしますので、都度ご持参ください。

2. その他

公式ラインのご登録をお願いいたします。

以上

本登録用Googleフォームはこちら

QR コード

【お問い合わせ先】
(株) フクシ・エンタープライズ東北支店
事務局: ★豊岐優 渡部嵩真 後藤裕介
連絡先: 080-3308-2865
メール: lsc.fep@gmail.com

【参加者本登録案内資料】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【古川黎明中学校地域クラブの様子】



【古川黎明中学校地域クラブの様子】



【仙台二華中学校地域クラブ活動の様子】



【仙台二華中学校地域クラブ活動の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年度

古川黎明中学校地域クラブ
5種目で実施

部活動地域移行
協議会古川黎明
中学校分科会及
び仙台二華中学
校分科会

令和6年度

古川黎明中学
校9種目、仙
台二華中学校
3種目で実施

課題の整理
令和7年度以降
の体制整備

令和7年度

古川黎明中学校
9種目、仙台二
華中学校10種
目で実施

令和8年度中

休日の部活動を行わない

令和6年度

●経過

- ・運営団体協力のもと、予定していたすべての種目で実施
- ・派遣される指導者や地域の指導者がそれぞれ生徒のニーズに応じた指導を行い、満足感を得られた

●実施にあたって生じた課題

- ・受益者負担額の設定

●実施内容、工夫した点 等

- ・関係者へのヒアリング
- ・地域移行協議会県立中学校分科会による関係者への周知

令和7年度

●経過

- ・予定していた実施種目を実施できなかった
- ・令和7年度の実施に向けて新たな体制構築が必要

●実施にあたって生じた課題

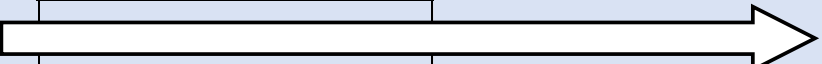
- ・運営団体の変更により、運営団体の選定、指導者の確保等すべてが振り出しに戻った

●実施内容、工夫した点 等

- ・関係者へのヒアリング
- ・関係者への説明会
- ・実施種目を切れ目なく令和7年度も継続するための体制構築

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度以降
県	移行検討期間	改革推進期間 		
	移行の検討・方向性の決定 実証事業で一部休日の地域移行実施	実証事業等で一部休日の地域移行	実証事業等で一部休日の地域移行	休日の部活動を実施しない
国	改革推進期間 			地域クラブ活動の充実
	地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す			

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県 気仙沼市

自治体名：宮城県気仙沼市

担当課名：教育委員会学校教育課

電話番号：0226-22-3441

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	332.44 km ²
人口	56,932 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	1,168 人
部活動数	64 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

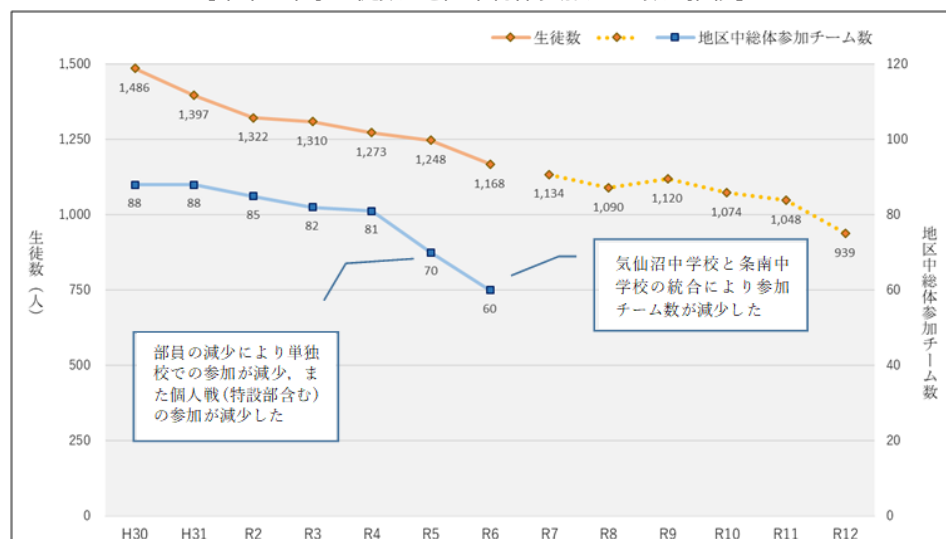
人口減少が進む中、生徒数の減少により、中学校の部活動では団体競技の人数が確保できず、学校単位での活動が成り立たなくなっている。その結果、子供たちが希望する種目を選択できない等の課題が生じている。

このような状況を踏まえ、本市では「中学生のスポーツ環境の充実」と「地域スポーツの振興」の2つを柱として、中学校部活動の地域移行を進め、持続可能で豊かなスポーツ活動の環境を整備することとしている。

令和5年8月からはサッカー、卓球の2つの競技において、学校と地域が連携した「合同練習会」を実施した。さらに、令和6年9月からは、これらの競技を含む5つの競技で地域クラブ活動を開始した。

地域スポーツの振興を図るためには、これまで指導経験のなかった競技経験者や保護者など、地域のつながりによる指導者の確保と育成が必要である。

【本市の中学生徒数と地区中総体参加チーム数の推移】

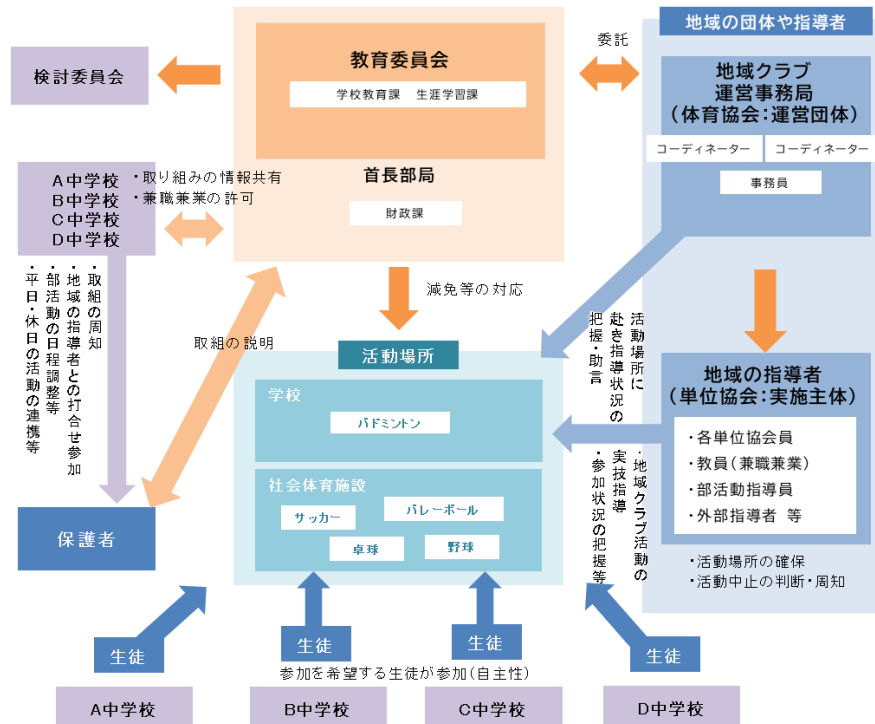


出典：第7回気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会資料

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…検討委員会の開催、学校との調整・連携、委託団体との連絡調整等
- ・生涯学習課…学校施設、市公共施設の利用調整等

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年8月	市から市体育協会へ業務委託
令和6年9月	地域クラブ活動関係者打合せ
令和6年9月	第1回指導者研修会
令和6年9月	地域クラブ活動 順次開始
令和6年10月	児童・生徒・保護者へのアンケート (ニーズの把握)
令和6年11月	検討委員会開催
令和6年12月	生徒・保護者等へのアンケート (実証事業成果の調査)
令和7年1月	第2回指導者研修会
令和7年1月	地域クラブ活動関係者打合せ
令和7年2月	検討委員会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	9 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（28 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	64 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
気仙沼市 体育協会	体育 スポーツ 協会	サッカー 卓球 バドミントン 野球 バレーボール	月 2 回 月 2 回 月 1 回 月 1 回 月 1 回	13～16時 9～12時 9～12時 13～16時 9～12時	のべ 86人 のべ 100人 のべ 41人 のべ 42人 のべ 221人	9～2月	学校施設 公共秘説	14人 16 人 14人 14人 6人	3 人	会費 0 円／年	中体連：部 活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- サッカー競技は、実施団体が主体となり、独自に運営しているスクール事業と連携し、他市の生徒とも交流を図った。
- バレーボール競技では、発達段階に応じたコーディネーショントレーニングを体験できる機会を企画し、基礎体力向上や技術力向上など、活動内容の充実を図った。

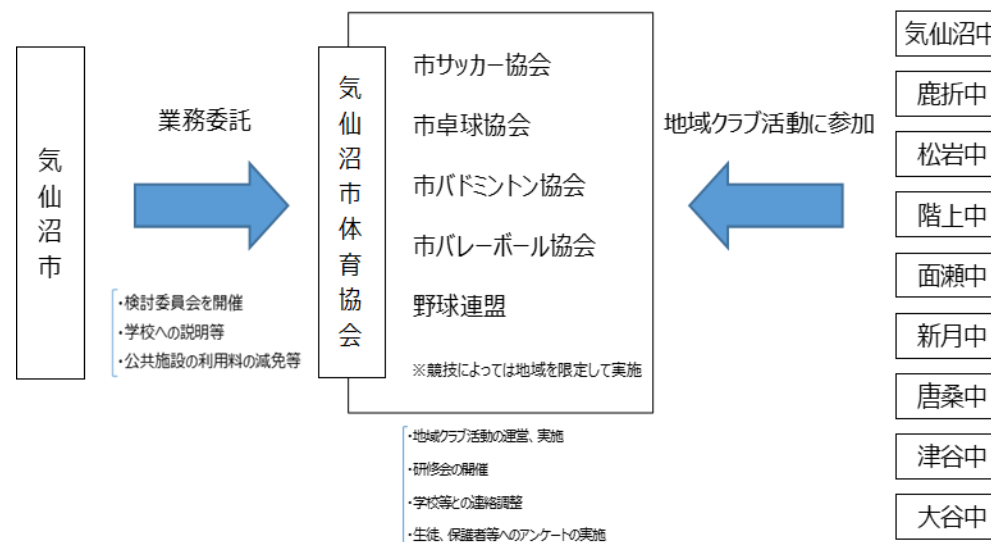
2.実証内容と成果

主な取組例

●一般社団法人気仙沼市体育協会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、卓球、バドミントン、野球 バレーボール
運営団体名	一般社団法人気仙沼市体育協会
期間と日数	サッカー：10月20日～2月2日（9回） 卓球：9月7日～2月8日（10回） バドミントン：9月22日～2月24日（6回） 野球：10月14日～2月日（5回） バレーボール：10月14日～2月24日（4回）
指導者の主な属性	体育・スポーツ協会の指導者 教員の兼職兼業、部活動指導員
活動場所	学校施設、公共施設
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	0円／年（公費）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営団体（コーディネーター2名、事務員1名）

役割：各学校と地域指導者の連絡調整、生徒・指導者の保険に関すること
指導者の研修・助言、物品の調達、調査研究業務等を行う

●運営責任者（各協会等で配置）

役割：活動中止の判断及び周知、生徒の出欠状況の把握等を行う

●地域指導者

役割：技術指導、活動中の事故やけが等への対応を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○コーディネーターを2名配置し、各学校や実施団体との連絡調整や指導助言等を行う。

○運営・実施団体の体制整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制を整備する。

取組の成果

○市内全ての中学校において、生徒・保護者への周知、地域指導者との打合せへの参加、部活動の日程調整等について協力を得ることができた。

○運営団体にコーディネーターを配置したことで、学校と運営・実施団体との連携体制を構築し、連絡調整や打合せ等を円滑に進めることができた。

○実施団体の母体組織が運営団体となったことで、地域移行に向けた取組を行う実施団体を増やすことができた。

○運営・実施団体の協力により、これまで指導に携わっていなかった競技経験がある者や保護者、教員など、地域のつながりを活かして指導者を確保することができた。

○地域指導者からの指導について、「競技力の向上や競技に対する意欲が増した」「個別の指導や練習の補助をしてくれた」と感じた生徒が多かった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

○学校と地域指導者の打合せを開催した。

○生徒、保護者、学校等へ活動日等の連絡調整を行った。

○各クラブを巡回し、クラブ活動への生徒の参加状況や指導体制の状況を把握した。

○地域指導者に対して、各種研修の企画や情報提供を行った。

今後の課題と対応方針

○コーディネート業務を担う人材の確保と育成等を図る必要がある。

○学校部活動との連携不足や部活動顧問と地域指導者との情報共有などについて、定期的な打合せ機会をもち、連携を一層強化していく。

○生徒の欠席連絡が徹底されておらず、出欠確認に時間がかかったり、指導者の人数調整に支障があったため、説明会等で周知していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- 運営団体と連携した新しい人材の発掘
- 教員の参加に向け、兼職兼業の事務手続きを整理し、周知する
- 地域指導者を対象とした研修会の開催

指導者の人数

64名

指導者の年齢構成

20代	8名
30代	7名
40代	15名
50代	17名
60代以上	17名

指導者の属性

- ・各単位協会員
- ・教員の兼職兼業
- ・部活動指導員
- ・外部指導者
- ・総合型地域スポーツクラブの指導者
- ・スポーツ少年団の指導者

種目

- ・サッカー
- ・卓球
- ・バドミントン
- ・野球
- ・バレーボール

資格有無

- 26名有資格者
- ・D級コーチ
- ・2級インストラクター
- ・JSPOコーチ1
- ・JSPOスタートコーチ
- ・JSPOスポーツコーチングリーダー
- ・運動部活動指導士

取組の成果

- 地域クラブ活動に携わった人員は64名に上り、多様な人材を活用できた。
- 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の指導者が地域指導者として参画し、専門性の高い指導体制を構築できた。
- 教員の参加については、兼職兼業に関する事務手続きを整理したことで、4名の教員が指導に携わる体制を整備できた。
- 指導者研修会を企画し、成長段階に応じたトレーニング等の専門知識を習得する機会を提供できた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【座学研修】

- ・地域スポーツクラブ指導者に求められるもの
- ・スポーツ現場におけるハラスメント防止について

【実技研修】

- ・明日からできる！年代別のコーディネーショントレーニング理論と実践
- ・パフォーマンス向上のためのスポーツリズムトレーニング

【実技研修（卓球）】

- ・中学生に適した現代的な卓球の指導方法

【実技研修（バレーボール）】

- ・練習前のアップの仕方
- ・バレーボールに必要なトレーニング

指導者研修の参加実績

- ・開催日：9月21日～1月25日
- ・開催回数：4回
- ・参加人数：のべ76人

受講者の声

地域指導者（卓球）

見ているだけでは簡単そうに思えたが、実際にやってみると体のいろいろな部分にきいてくることが分かった。大人には厳しいが成長段階の子供たちには必要だと感じた。

地域指導者（バレーボール）

これまで地域クラブでは技術指導を中心に行ってきたが、今後はアップ段階でこのような活動を取り入れたいと考えているので、次回の練習から実施したい。

地域指導者（兼職兼業・野球）

講義の中で日本人は4拍子のリズムの生活、欧米人は6拍子、また地域によってサンバのリズムなど、生活習慣で動きのリズムが身についていることが分かった。小さい段階からいろいろなリズムに触れさせ、慣れさせることが大切だと感じた。

今後の課題と対応方針

○教員が中心となって指導をしている競技は、人事異動等により活動の継続が困難になる可能性もあるため、指導者の確保が急務である。

○特定の指導者に負担がかかっている競技があり、複数の指導者で業務を分担し、特定の指導者への負担を減らす体制の見直しを行う。

○平日と休日の一貫指導を持たせるため、地域指導者と部活動顧問の効率的・効果的な連携方法を考えていく必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度は、令和5年8月に学校と連携して部活動の指導を行ってきた各単位協会の母体組織である一般社団法人気仙沼市体育協会が運営母体となり、各学校との調整や生徒・保護者との連絡体制の構築、指導者の確保・育成に重点を置き、体制整備を行ってきた。

また、各学校においては、生徒・保護者への周知、部活動顧問の打合せへの参加、部活動の日程調整などの協力を得ている。

しかしながら、指導者からは学校部活動との連携不足や連絡体制、部活動顧問と地域指導者との情報共有などについて課題が挙げられている。生徒が参加しやすい体制を整えていくためには、本事業に関して学校と地域団体の共通理解のもと、学校と指導者間の連携を一層強化するとともに、活動時間帯の見直しや活動内容の充実などについて、指導者や団体等と協議していく必要がある。

●成果の評価

○地域が主体となる「地域クラブ活動」を実施し、地域移行への確かな一歩を踏み出すことができた。

○これまで学校と連携して部活動の指導を行ってきた実施団体の母体組織が中心となって、多くの指導者を確保することができた。特に、地域クラブ活動での指導を希望する4名の教員が指導に携わることができたことは、生徒の参加体制や指導内容の充実という点で大きな効果があったと言える。

○指導者からは、地域クラブ活動を通して生徒と指導者の間で関係性が築かれており、指導者のモチベーションにも繋がっているとの声も寄せられている。

○地域クラブ活動には、スポーツ少年団等に所属していない生徒が多く参加している競技もあり、貴重な活動機会となっている。活動日等を柔軟に設定することで、参加者が徐々に増えた競技もあり、生徒や保護者のニーズに合わせた運営の重要性を再認識した。

●今後に向けて

○実証事業に参加した部活動において、地域クラブの活動日に部活動を実施している学校も見受けられたことから、引き続き、学校や部活動顧問等に対し、部活動と地域クラブの活動が競合しないよう、事業趣旨の理解を求めていく。

○持続可能な運営とするために、受益者負担をいつからどのぐらい徴収するのが良いのか見極めていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果（生徒・保護者のニーズの把握）

児童

① 部活動の参加希望とその選択理由は？

・児童の8割が部活動の参加を希望している。
・選択理由は、「中学生になったらやりたいと思っていた競技・種目だから」の回答が最も多かった。（P1参照）

児童生徒

③ 地域クラブ活動の参加希望と活動についての考えは？

・児童の約9割、生徒の約8割が地域クラブ活動で参加を希望する競技・活動を選択している。
・地域クラブ活動では両者とも「友達と楽しく活動したい」が最も多かった。（P2～3参照）

児童の保護者

⑤ お子さんが取り組むスポーツ・文化芸術活動について、中学生になったらどのようにしたいと考えているか？

・児童の保護者の約5割が「本人の希望を尊重したい」と回答している。（P4参照）

生徒

② 部活動の所属状況とその選択理由は？

・部活動に所属している生徒のうち、希望どおり部活動に所属している生徒は、約8割いる。
・選択理由は、「中学生になったらやりたいと思っていた競技・種目だから」の回答が最も多かった。（P1参照）

児童生徒の保護者

④ 部活動の地域移行について、本市の取組状況を知っていますか？

・児童生徒の保護者7～8割が「知っている」「なんとなく知っている」と回答。
・「なんとなく知っている」が両者ともに多かった。（P3参照）

児童生徒の保護者

⑥ 地域クラブ活動に参加するとした場合、保護者の考えは？

・児童生徒の保護者の4～5割が参加費について「1,000円～3,000円未満」が妥当と回答している。
・児童生徒の保護者の5割が活動場所までの移動方法について「保護者等による送迎」が可能と回答している。（P3参照）

● 参加者の声（実証事業に対するアンケート）

中学生

地域指導者からの指導について、「競技力の向上や競技に対する意欲が増した」「個別の指導や練習の補助をしてくれた」と感じた生徒が多かった。

保護者

「専門的な指導を受けられた」「普段と違う練習で刺激になった」ことを評価。
一方、「参加者が少なかった（休む人が多かった）」「期待していたほど専門的な指導を受けられなかった」との意見もあった。

学校

学校管理職及び部活動顧問の多くが、地域クラブ活動に「とても満足している」「満足している」と回答。

地域指導者

地域クラブ活動の日は、部活動練習日の調整など、協力してほしいとの意見が多かった。
実証事業について、学校関係者への周知が足りない。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

【保護者への地域移行に向けた取組の周知】

【参加者募集・団体紹介シート】

(表)

(裏)

気仙沼市は、子供たちの豊かなスポーツ・文化芸術活動の確保・充実に向け
5競技で休日の学校部活動を地域クラブ活動として取組を開始します！

国の動向

近年、少子化等により、学校部活動を継続していくことが難しくなっていることから、令和4年12月に国が「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、休日の学校部活動の段階的な地域連携や地域クラブ活動への移行を、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すように示されました。

本市の考え

市教育委員会では子供たちの豊かな活動機会の確保のため、「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」において、部活動の在り方を検討し、学校を含めた地域人材・団体の理解と協力を得ながら、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術の活動環境として地域クラブ活動の仕組みを新たに構築します。

なぜ地域移行が必要なのか？

- ◆ 生徒数が減少しており、各校で十分な活動ができなくなる可能性が高まっています。
【中学校の生徒数推移予測】
平成19年度 2,320人
令和6年度 1,168人 (▲49.7%)
令和14年度 871人 (▲62.5%)
- ◆ 部員数が減少し、学校単位では部活動が成り立たなくなっています。
【部活動数の推移】
平成18年度 運動部 13競技 (総部数 122)
令和6年度 運動部 10競技 (総部数 60)
文化部 3部 (総部数 11)
- ◆ 指導者を確保することが年々困難になっています。
少子化により学級数が減少した場合、教職員の数が減り、部活の数に対して教員数が不足することが大きな問題となっています。また、競技経験や指導経験が浅い教職員(顧問)が指導に従事するケースが多くなっており、令和4年度の本市調査によると、62.2%の教職員が「経験なし・学校の授業での経験のみ」と回答しています。

移行することにより...

- 学校ごとに部活動が限定されず、子供たちの選択肢が広がります。
- 専門的な指導が受けられやすくなります。
- 子供たちが切磋琢磨できる環境や世代間交流機会の創出により視野を広げ、社会性を育むことが期待できます。

【お問い合わせ】 気仙沼市教育委員会 学校教育課 熊谷・小野寺 ☎2-2-3441
生涯学習課 伊藤 ☎2-2-3442

今年度の取組 休日の学校部活動の一部の競技で地域クラブ活動を実施します

- 令和6年9月から、サッカー、卓球、バドミントン、野球、バレーボールの5競技を、地域クラブ活動として中学生が参加できる体制を構築します。競技によっては、地域を限定して実施します。※平日は、これまでどおり学校部活動となります。
- 気仙沼市教育委員会が気仙沼市体育協会に委託して実施します。
- 参加生徒の募集案内は各校を通じてお知らせいたします。(8月下旬頃)

活動に関する Q&A

※以下の内容については、現時点での内容となっておりますので、今後変更となる場合があります。

休日の部活動と地域クラブ活動の違いは？

学校部活動は学校教育の一環である一方、地域クラブ活動は学校教育外の活動となります。活動中に事故が発生した場合、責任等が異なります。

	学校部活動 (学校が行う教育活動)	地域クラブ活動 (地域が行う社会教育活動)
参加者	当該校の生徒	学校部活動と同一競技で参加を希望する生徒1~3年生
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者
場 所	学校施設、公共施設	学校施設、公共施設
活動日時	各学校の部活動指導計画による	各地域クラブ団体等の計画による
保 険	日本スポーツ振興センター	スポーツ安全保険

連絡手段は？

保護者と地域クラブ活動の運営責任者が「つながる連絡(アプリ)」を利用し、活動日の連絡や欠席連絡を行います。

参加費は？

令和6年度は参加費はかかりません。

活動場所は？

競技によって活動場所は異なります。活動場所への移動については、保護者の皆様による送迎の御協力をお願いいたします。

活動回数は？

競技によって活動回数は異なります。地域クラブ活動がない週末の部活動については、これまでどおり学校部活動となります。

大会参加は？

各大会要項に示された出場基準に則って参加していただきます。当面は学校単位または複数校による合同チームで出場することが想定されますが、学校に常設部がない等の要件を満たす場合は、スポーツ少年団としての出場も考えられます。



競技・対象(エリア)	活動日時	活動場所	指導者
サッカー (市内全地域)	9月~10月 月2~3日	日暮 大正14年町立公園 多田グラウンド	気仙沼市サッカー協会
卓球 (市内全地域)	9月2日頃	大正14年町立公園 多田グラウンド	気仙沼市卓球協会
バドミントン (市内全地域)	9月1日	大正14年町立公園 多田グラウンド	気仙沼市バドミントン協会
バレーボール (市内全地域)	9月1日	大正14年町立公園 多田グラウンド	気仙沼市バレーボール協会
野球 (市内全地域)	9月1日	大正14年町立公園 多田グラウンド	気仙沼市野球協会

問合せ 一般社団法人 気仙沼市体育協会
住所:気仙沼市幸町44-180 ☎0226-21-3421

団体紹介シート

団体名	気仙沼市サッカー協会	団体PR	
競技・種目	サッカー		
活動対象	気仙沼市内の中学生30名程度		
活動の方針	☐ 初心者の方から、楽しく体を動かす ☐ 経験者の有無を問わず競技を楽しめる ☐ 基礎から応用まで一連の技術を習得できる ☐ それぞれが目標を持ち、技術を高める		
活動場所	①大正14年町立公園多田グラウンド Aコート ②旧桑葉中学校グラウンド		
活動日時	①週末 13:00 ~ 16:00 ②平日 : : :		
会費			
指導者数	12名		
指導者資格など	D級コーチ・サッカー3級審判・普通教員 ○東地は活動時間定数あり ○飲み物・サッカーボールを忘れずお持ち下さい ○体調不良や怪我の際は、速やかにお伝え下さい	団体HPなど	
注意事項		担当者 事務局 佐藤京児 電話番号 メールアドレス	

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域指導者を対象とした研修会の様子】



【野球の指導の様子】



【スポーツリズムトレーニングの様子】



【サッカーの指導の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

気仙沼市体育協会、気仙沼市文化協会、総合型地域スポーツクラブ、気仙沼市立学校長会、気仙沼市PTA連合会等

●経過

気仙沼市体育協会、気仙沼市文化協会等との準備会を経て、令和4年11月に「気仙沼市における学校部活動の地域移行に関する検討委員会」を設置し、中学校における部活動の地域移行に関する体制の在り方を検討している。

●実施内容

令和5年8月から令和6年8月まで、気仙沼市体育協会及び加盟団体の協力のもと、3競技で「休日の学校部活動の合同練習会」を先行して実施した。

令和6年9月からは上記3競技に加え2競技を含めた5競技で地域クラブ活動の取組を開始した。

●実施にあたって生じた課題

- ・指導者の確保と質向上（既存のスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等との連携・協働体制の構築）
- ・学校、家庭、関係団体との連絡調整や事業内容の説明機会の確保
特に、部活動顧問と地域指導者の連携体制の構築、欠席時の連絡体制等
- ・活動場所の確保、関係者への活動計画の周知、事故対応、指導者への謝金の支払事務等の業務量の増加
- ・費用負担の在り方
- ・活動場所までの移動手段

●今後の展開

- ・令和6年度の取組の効果をより確実なものとするため、令和7年度は通年で実施する。また、受け皿の体制が整った活動から順次、競技を拡大するとともに、地域の拡充を進める。さらに、本市の休日の学校部活動の地域移行について、移行時期や移行する種目など、県や学校再編の動向を注視しながら、見極めていく。
- ・持続可能な地域クラブ運営とするために、費用負担の在り方や国から示される地域クラブの定義や要件等を注視しながら、公的支援の対象とする地域クラブ活動を整理していく。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県 白石市

自治体名：宮城県白石市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0224-22-1343

1.自治体の基本情報

基本情報（令和 6 年 10 月時点）

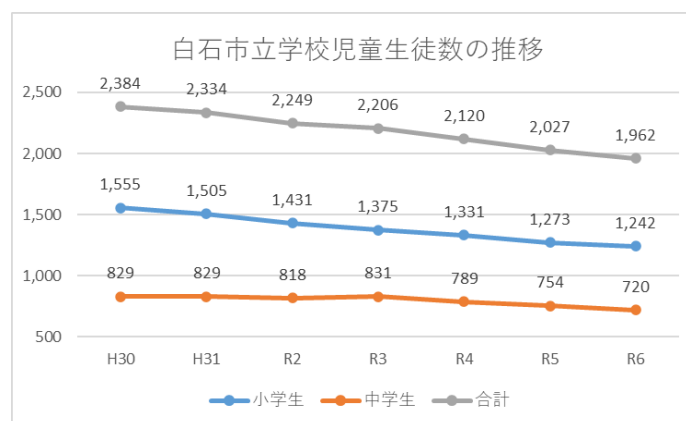
面積	286.47 km ²
人口	30,694 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	720 人
部活動数	36 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化に伴い、一つの中学校だけでは特定の運動部を設けることが難しい状況が生じており、設置している運動部の精選が各学校の課題の一つとしてあげられている。また、競技、指導経験がない教員が運動部顧問をしている場合があり、心身ともに負担が大きくなっている。

一方、生徒からは「もっと上手になりたい」「成長したい」との声もあり、更なる指導者及び練習内容の質を向上と充実を図る必要がある。更に、これまで実施していた中学校以外からも地域移行の要望があることから、指導者の増員も視野に、地域移行の取組の拡大を図らなければならない。

また、生徒、学校、指導者等をつなぐコーディネーターの役割も重要であることから、資質向上に取り組むとともに、生徒や保護者、指導者、学校等のニーズの的確な把握や、受益者負担の適切な設定や徴収方法の検討などを行うこととする。



出典:白石市在籍児童生徒数

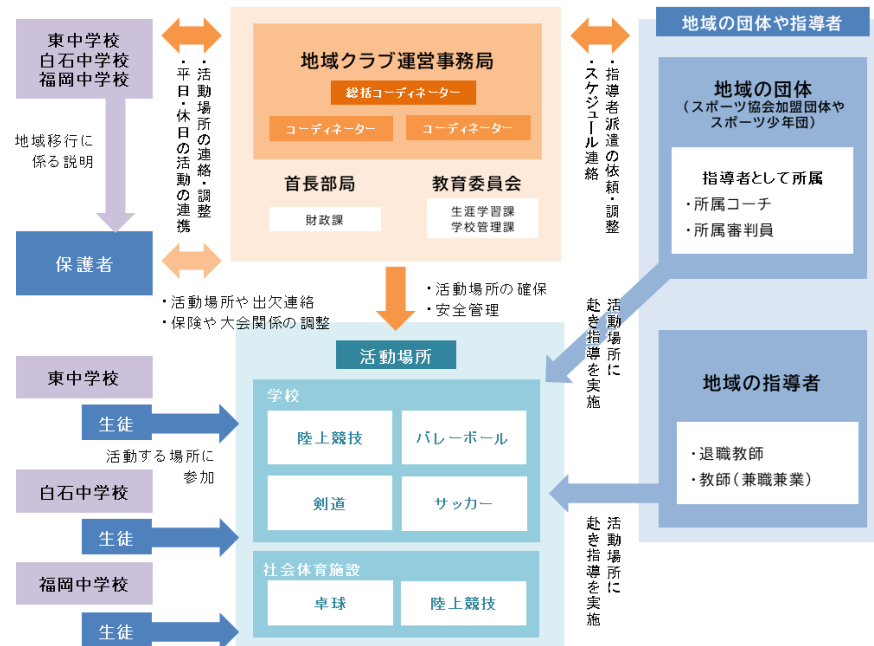
【課題】

現在の白石市の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習課（スポーツ主管課）
 - …実証事業主管、実施主体との連携
- ・学校管理課（学校体育担当課）
 - …学校部活動、部活動指導員の調整

◎首長部局

- ・財政課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年 5月	拠点校における実施準備 第1回指導者会議 保護者説明会 第1回白石中学校との打合せ
令和6年 6月	地域スポーツクラブ活動開始 第1回福岡中学校との打合せ 第2回白石中学校との打合せ
令和6年 7月	第2回福岡中学校との打合せ
令和6年 8月	第2回指導者会議
令和6年 9月	第3回白石中学校との打合せ
令和6年11月	第1回指導者研修会
令和6年12月	第1回拠点校実施協議会
令和7年 1月	第2回指導者研修会 アンケート実施 (生徒,保護者,教員,指導者)
令和7年 2月	第3回指導者研修会 第2回拠点校実施協議会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（5 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	8 人	全体の運営スタッフ数	4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
白石市総合型地域スポーツ・文化クラブ	総合型地域スポーツクラブ	陸上競技 サッカー バレーボール 卓球 剣道	月 3 回 月 1 回 週 1 回 週 1 回 月 1 回	9時～ 12時 13時～ 16時 など	3学年 4人 2学年19人 1学年21人	令和6年 6月～ 令和7年 2月	東中学校 市中央公民館 市陸上競技場 ほか	8 人	4 人	0 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

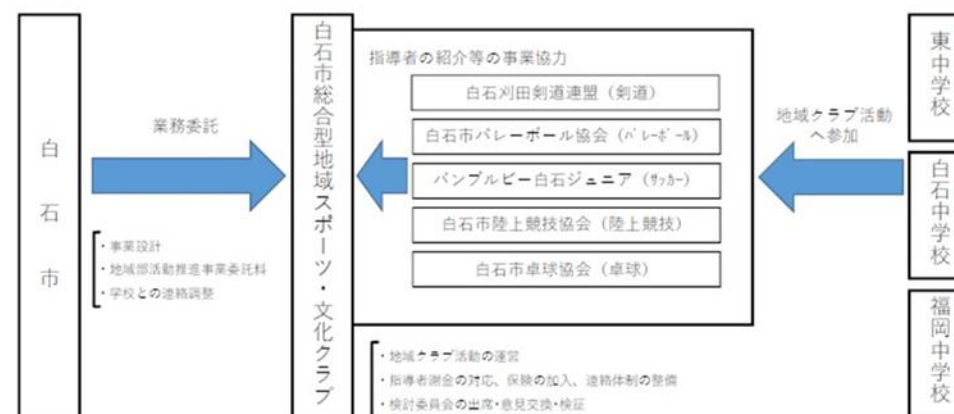
主な取組例

●白石市総合型地域スポーツ・文化クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、サッカー、バレーボール 卓球、剣道
運営団体名	白石市総合型地域スポーツ・文化クラブ
期間と日数	陸上競技：6月～2月 月3回程度 サッカー：6月～2月 月1回程度 バレーボール：6月～2月 週1回程度 卓球：6月～2月 週1回程度 剣道：6月～2月 月1回程度
指導者の主な属性	元教員、小中学校教員、協会審判員
活動場所	東中学校、白川中学校 市中央公民館、市陸上競技場
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

（運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括コーディネーター

役割：活動における管理者として、学校、保護者、指導者との連携を行う

●コーディネーター 3名

役割：統括コーディネーターの補助として、連携を行う

●指導者 8名

役割：活動において、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市との連絡調整・指導助言等を行う。
- 中学校区でのコーディネーターを配置し、運営団体・実施主体と中学校の連絡調整を行う。
- 参加者管理、参加者・保護者・指導者への連絡にICTを活用。

取組の成果

- 統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・運営等を円滑に行うことができた。
- 白石中学校、福岡中学校において、実証事業に向けた打合せを複数回実施し、参加までは至らなかったが、次年度へ向けた連絡調整を行うことができた。
- クラブごとのLINEグループを作成し、同意の上加入してもらうことで、活動日程や当日欠席の連絡、活動の開始時と終了時の報告等、スムーズな連絡体制が確立された。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括コーディネーター】

- ・月1回のペースで各クラブを巡回し課題等のヒアリングを実施
- ・学校、参加者、指導者への連絡調整を実施

今後の課題と対応方針

- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- スポーツ協会、競技団体、大学等と連携し、指導者の確保に努める。
- 地域スポーツクラブ活動に携わる指導者全員を対象に研修会を開催。

取組の成果

- ・スポーツ協会加盟の競技団体経由や事業に積極的な教員の兼職兼業により指導者を3名確保した。
- ・年3回、指導者研修会を実施し、各回平均6人の参加があった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

●対象：クラブ登録指導者

【コンプライアンス研修会】

- ・目的：指導者が法令や統一的なクラブ運営の理念を理解してもらい、コンプライアンス違反を未然に防ぐこと
- ・工夫した点：研修を受ける前に悩んでいることを出してもらい、今の指導者は技術的な指導方法よりも保護者や生徒との関わり方の悩みが多い傾向にあることを理解してもらったうえで受講してもらった。

【普通救命講習会】

- ・目的：緊急時に救命処置を実施できるようになること
- ・工夫した点：繰り返し実践することでの反復学習

【運動が上達する体の土台作り講習会】

- ・目的：体幹の意識や動きの連動を学ぶこと
- ・工夫した点：楽しく体を動かしながら体づくりを学べるようにしたこと

指導者研修の参加実績

- ・開催日：11月17日、1月25日、2月16日
- ・開催回数：3回
- ・参加人数：17人

受講者の声

【コンプライアンス研修会】

「スポハラには、コーチから生徒に対してのほか、保護者からコーチに対してのものもあること、子ども同士でもあることを学ぶことができた」

「自分の意見を言わず、傾聴を意識したい」

【普通救命講習会】

「とても参考になった。毎回受けていても時間と共に忘れてしまうので定期受講は大切だと思う」

「実践することの大切さを学んだ」

【運動が上達する体の土台作り講習会】

「遊びの中での学びがあるとわかった」

「早速普段の練習に取り入れたいと思う」

今後の課題と対応方針

●指導者が1名体制の協議クラブもあり、無理なく持続可能な体制にするためにも指導者の確保が必要である。引き続き各団体と連携し、指導者の確保に取り組む。

●研修に対する指導者の満足度は高く、開催頻度の向上や継続的な取り組み、さらには内容の充実が求められており、今後も質の高い研修を実施していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○スポーツ協会、競技団体、高校、大学と連携し、指導者の派遣依頼や合同練習会を開催。

取組の成果

○指導者のつながりから、陸上競技においては管内の中学校、高校と、バレーボールにおいては管内や県外の中学校、高校と合同練習を行った。

合同練習をすることで、他の地域とのつながりや世代間交流・連携などを構築することができ、生徒の技術力の向上、指導者の質の向上を含めて効果的な取り組みとなった。

○卓球においては、月1回程度の頻度で各種大会に出場。試合の緊張感や勝利への喜び、仲間と協力する楽しさを実感し、競技の楽しさを知ることができ、活動への意欲につながった。

今後の課題と対応方針

- 今後も、他団体と連携をとり、生徒の技術力の向上や指導者の質の向上を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○これまで実施していた東中学校に加え、白石中学校、福岡中学校の実施希望している運動部も地域に移行。

取組の成果

○各中学校において、実証事業に向けた打合せを複数回実施し、参加までは至らなかったが、次年度へ向けた連絡調整を行うことができた。

今後の課題と対応方針

○移行に取り組む競技を選定し、クラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○高校生と合同で練習を実施。
 ○ニーズや意見等が反映される
 取組を実施するため、実証事業
 の実施に対して、生徒、保護者、
 指導者、教員へのアンケート調
 査を実施。

活動の詳細

参加人数	16 人	指導者数	5 人
属性	世代間交流に関する取組		
具体的な内容	陸上競技は毎月の仙南地区合同練習のうち1回、バレーボールは遠征の合同練習時に、他の中学校と合わせて高校生との合同練習を実施。		
子供の声	● 自分がやっている種目に対してアドバイスをもらい、以前に比べて上達できた。 ● アドバイスがわかりやすくよかった。 ● 普段の練習より更に上のレベルを体験することができた。 ● 良い見本を見ることができて感動、こうなりたいと思った。 ● この先輩と一緒に練習がしたい、この高校に行きたい、そう思うきっかけになった。		
関係者の声	● 子どもたちは、指導者（大人）から伝えるのとはまた違ったとらえ方で高校生のアドバイスを聞いてくれるので、良い刺激になっている。 ● 各々の専門分野や指導方法を持った指導者が増えることにより、子どもたちの技術力の向上につながるのはもちろん、指導者の指導方法の拡大にもつながる。		
運営経費	指導者間の連携で実施したため費用はかかっていない		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

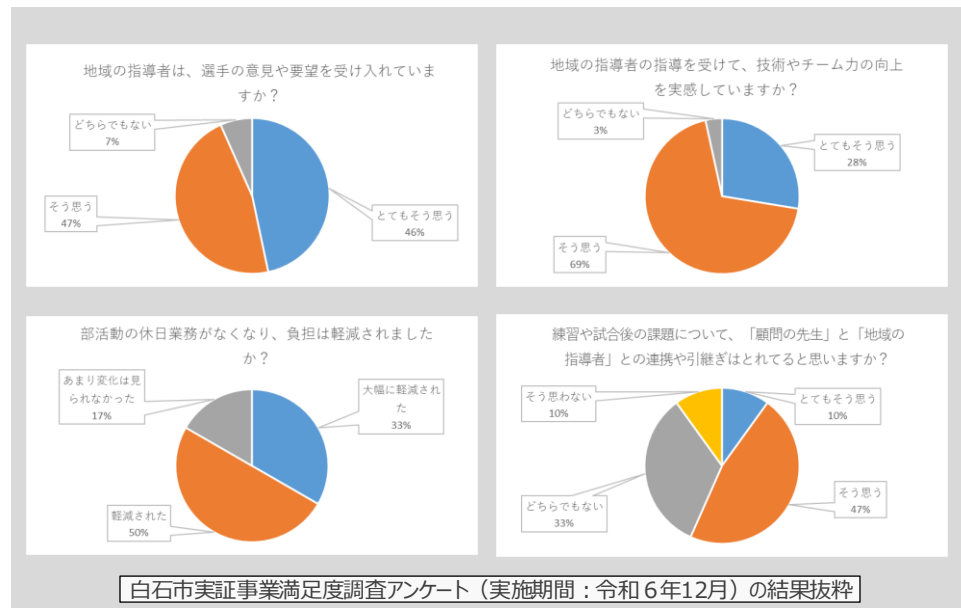
●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○高校生と合同練習をすることで、世代間交流・連携などを構築することができ、生徒の技術力の向上、指導者の質の向上を含めて効果的な取り組みとなった。

○参加した中学生40人を対象としたアンケートの結果、回答者の93%が「指導者は選手の意見や要望を受け入れている」と回答。同じく97%が「指導者の声掛けや教え方は良かった」「指導者の説明や手本は分かりやすかった」「指導者の指導を受けて、技術やチーム力の向上を感じている」と回答。

○対象部活動の顧問6人を対象としたアンケートの結果、5人が「部活動の休日業務がなくなり負担が軽減された」と回答。



今後の課題と対応方針

○参加した中学生を対象としたアンケートの結果において、上記のように指導者の指導方法には満足を得ているので、良い面はできる限り継続する。

○「練習や試合後の課題について、顧問の先生と指導者との連携や引継ぎはとれていると思うか」の問いに対し、「そう思う」が57%、「どちらでもない」が33%、「そう思わない」が10%だったので、「そう思う」生徒を増やすため、

これまで以上に顧問の先生と指導者が良い連携がとれるようコーディネートしていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○会費の適切な設定・徴収方法の検討

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金（749千円）
- ・指導者旅費（88千円）
- ・消耗品費（62千円）
- ・連絡アプリ使用料（58千円）
- ・保険料（58千円）
- ・コーディネーター人件費（999千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った。
（検証結果の詳細は次ページ参照）

収支バランス

今後、地域クラブに係る経費を、クラブ活動費とクラブ運営費の2つに分けて考える。令和6年度で見ると全体の58.2%を占めるクラブ運営費は公費負担とし、41.8%のクラブ活動費をどこまで受益者負担で賄うか。今回の40人という参加者数でクラブ活動費を負担するのは、一人当たりの負担が大きすぎて現実的ではない。
収入は現時点では全額公費負担で対応。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造を2つに分けて検証を行う。

「クラブ運営費」については、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源を活用し、「クラブ活動費」を受益者負担の対象に検証を行っていくこととする。

○クラブ活動費全体を参加者に負担を求める場合であっても、指導者への謝金と生徒と指導者の保険料の2つに絞って負担を求める場合であっても、月額2,000円を超えてしまう。

○一部の部活でしか取り組みができておらず、ほかの部とのバランスを考えると、負担を求めるのは難しい。

○保険料のみの負担であれば、年額にしても1,500円程度なので、理解が得られる可能性はある。

項目	費用	割合		月額	公費負担額
クラブ活動費	1,015,414	41.8%	案①「クラブ活動費すべて受益者負担」⇒	2,821円/月	1,413,677円
諸謝金	748,800	30.8%	案②「謝金と保険料を受益者負担」⇒	2,242円/月	2,220,687円
旅費	88,200		案③「保険料のみ受益者負担」⇒	162円/月	2,370,881円
消耗品費	62,262		算出根拠⇒	費用/①/②	合計-費用
連絡アプリ使用料	57,942				
保険料	58,210	2.4%			
クラブ運営費	1,413,677	58.2%	⇒公費負担	① 活動月数	9
人件費	998,500			② 申込者	40
振込手数料	4,980				
消費税相当額	189,371				
一般管理費	220,826				
合計	2,429,091				

出典:令和6年度白石市地域スポーツクラブ活動体制整備事業受益者負担試算

今後の課題と対応方針

○クラブ活動費に絞って参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に安定性に欠けている。安価な受益者負担を求めたうえで、行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する必要がある。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

統括コーディネーターを中心に、拠点校で5競技での活動、地域の指導者8名で事業を実施。準備期間を経て6月から2月までの休日に活動を行った。

指導者のつながりから1名と、事業に意欲的な教員2名が、今年度から指導者に登録された。新規登録の指導者に加え、既存の指導者も対象に研修会を実施した。

また、指導者の横のつながりから、定期的な合同練習会への参加や各種大会に出場し、生徒の技術力の向上を図った。

拠点校で事業に参加した生徒、保護者、部活動顧問、地域の指導者にアンケートの実施し、満足度調査と課題の抽出を行った。

さらに、拠点校以外の学校とも打ち合わせを数回重ね、参加校を増やす取り組みを実施した。

今回の参加者と事業経費を基に、受益者負担の適切な設定やそもそもの在り方、公費負担とのバランスを検証した。

●成果の評価

統括コーディネーターを配置したことにより、学校（生徒や部活動顧問）、保護者、地域の指導者、実施主体の市と連絡調整をし、円滑に運営を実施できた。

指導者は新たに3名確保することができ、増員した陸上競技、バレーボールはより充実した活動をすることができた。指導者の講習会を3回実施し、質の保障、向上につなげることができた。

他校との合同練習を積極的に取り組み、技術力の向上を図るとともに、高校生と一緒にやることで、更に高いレベルへの意識改革、技術力向上、他の地域とのつながりや世代間交流・連携などを構築することができた。

アンケート調査は実証事業開始時から連続で実施できており、全体的に満足度の高い回答が得られた。

参加校を増やす取り組みについては、打ち合わせを重ねたことにより、次年度は何を重点に展開していくか決めることができた。

●今後に向けて

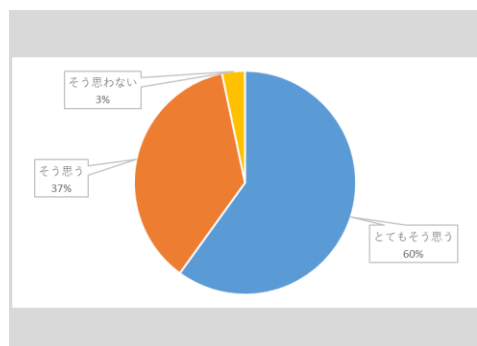
統括コーディネーターの配置を継続し、円滑な運営の実施の継続を目指す。指導者の確保、質の保障や向上も引き続き行い、満足度の高い事業とする。持続可能な事業にしていいため、参加校を増やしていくことが必要であり、大会参加のための合同チームの懸念が少ない個人競技、陸上競技に重点を置いてクラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

2.実証内容と成果②

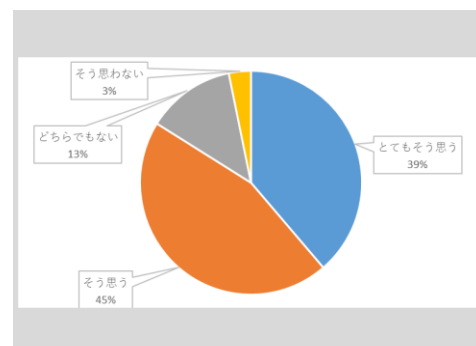
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

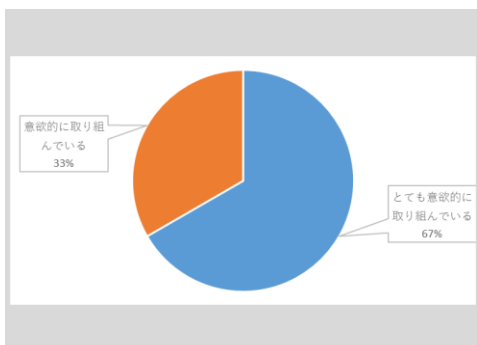
Q.「地域の指導者」熱意を持って指導していますか？（生徒）



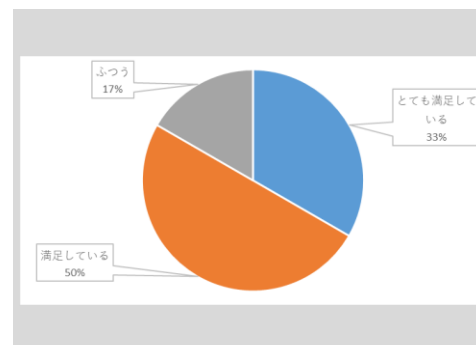
Q.あなたは活動している競技種目が少しずつ上達し、楽しくて好きになりましたか？（生徒）



Q.「地域の指導者」が担当している日は、生徒は意欲的に活動に取り組んでいるようですか？（部活動顧問）



Q.「休日のクラブ活動指導」について満足していますか？（指導者）



白石市実証事業満足度調査アンケート（実施期間：令和6年12月）の結果抜粋

●参加者の声

中学2年生

毎回楽しい活動でいろいろ教えてもらいありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

中学2年生

いつも集中して取り組められていることに感謝しています。いつもありがとうございます。自分も楽しんでやる事ができて嬉しいです。

部活動顧問

生徒は「地域クラブ活動ではこんな練習をしたんだ」と活動様子を生き生きと話してくれています。とても充実した活動に取り組めているようでとても感謝しています。

指導者

生徒たちが意欲的な事、彼らが今まで知らなかったりできなかった事が少しでも理解できたり技術の向上につながったりしたと感じられることがあるので満足している。

2.実証内容と成果③

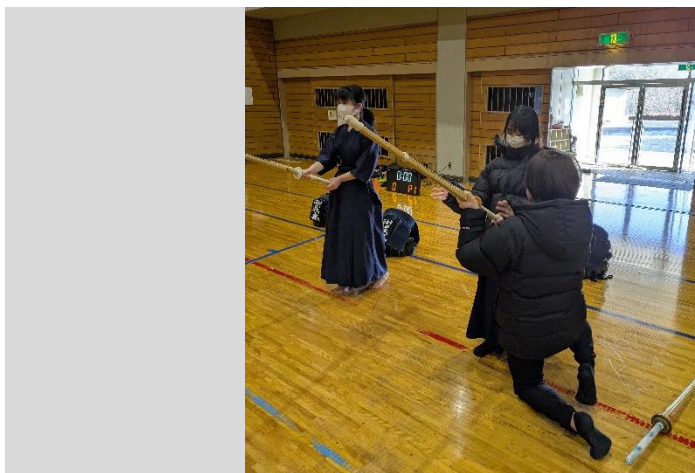
参考資料（活動写真）



【卓球：打ち方、受け方の指導】



【バレーボール：打つタイミング、強い打ち方の指導】



【剣道：竹刀の振り方の指導】



【陸上競技：走る姿勢、足の出し方の指導】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、競技団体、市教委、統括コーディネーター

●経過

令和2年度に学校、スポーツ協会、市教委で検討委員会を設置し、拠点校を選定した。同時進行でスポーツ協会加盟の各協会に指導者を打診。その後、拠点校との協議で実施する部活動を選定、指導者を確保できた5部活で進めることに決定した。

●実施内容

実施が決まった拠点校5部の部員の保護者に対し、この事業の趣旨や今後の取り組み方、進め方について説明会を開催した。その後、休日の部活動をクラブ活動として実施する取組を開始した。

●工夫した点

開始当初は、休日の部活動とクラブ活動を並行して実施する形をとり、顧問の先生と地域の指導者が一緒に指導をして、参加する生徒が混乱しないように、そして平日と休日の活動が全くかけ離れたものにならないように努めた。

●実施にあたって生じた課題

スポーツ協会経由で指導者を選定できなかった競技の部活動においては、顧問による兼職兼業での対応や生徒の保護者に登録してもらい、何とか指導者を確保して始めることができた。その後、指導者のつながりやスポーツ少年団のコーチ、退職した教師や現役教師の兼職兼業での登録により指導者の確保に努めているが、まだまだ十分ではない。スポーツ少年団や地域の大学へ指導者募集の案内を出すなど、統括コーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

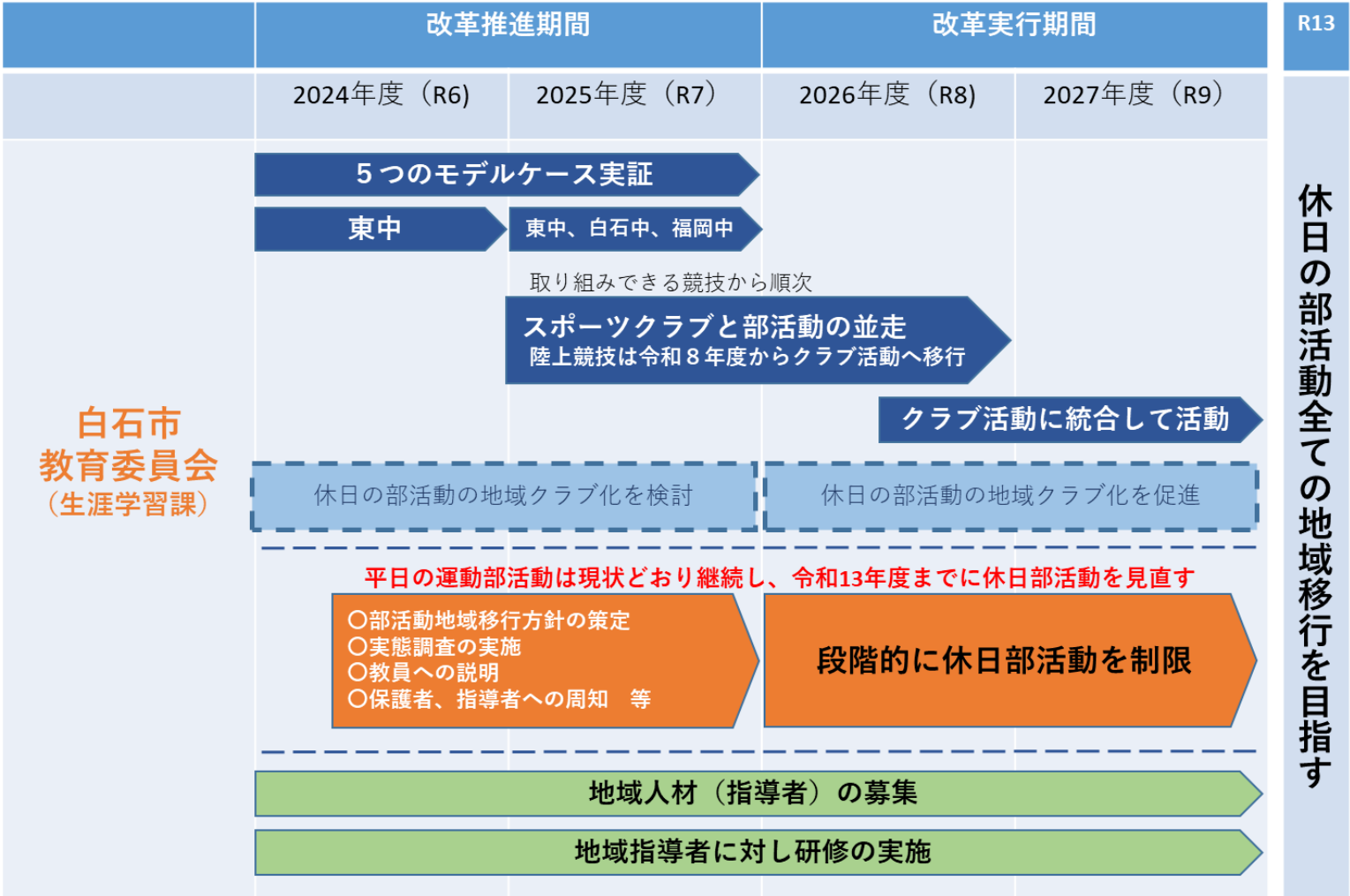
●今後の展開

令和7年からは、比較的合同チームになりにくい個人競技の活動から、拠点校以外の学校からの参加に取り組む。クラブ活動と部活動を並走させながら、クラブ活動への統合を目指す。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

白石市 運動部活動地域移行スケジュール（案）



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県 角田市

自治体名：宮城県角田市

担当課名：教育委員会 生涯学習課

電話番号：0224-63-2221

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積14,753 km ²
人口	26,593 人 (R6.9.30現在)
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	663 人 (R6.5.1現在)
部活動数 (顧問配置数)	運動部25 部活 文化部 7 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことできる機会を確保するために、角田市及び教育委員会では、学校部活動の地域連携と地域移行による部活動改革に取り組む。

課題1：生徒数の減少

中学生の生徒数は、直近では同数程度で推移しておりますが、令和5年度以降、減少する見込みとなっている。また、生徒数の減少は、部活動種目の維持に対しても影響力が大きく、活動が困難となる部活動が出てくる。

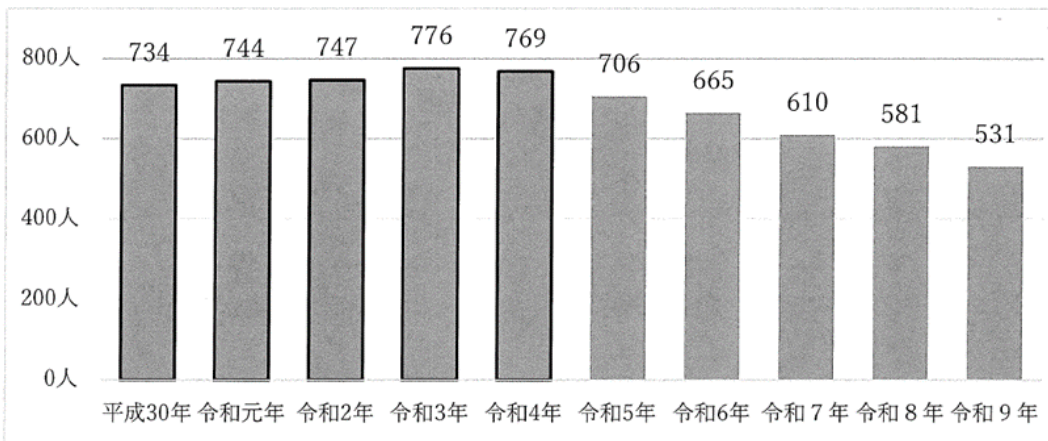
課題2：教職員の働き方改革

中学校の部活動顧問は、平日・休日問わず生徒の指導を担当し、疲弊している。

教職員の負担軽減を図りながら、専門種目の外部指導者を配置することで、休日の指導軽減に資する取り組みが重要である。

以上のことから、本市では部活動の良さを継承しつつ、現状の課題（教員の負担軽減、少子化で現状維持が困難など）を解決する。その際、生徒の生涯スポーツ・文化芸術活動への広がりや地域のスポーツ・文化芸術活動への好循環を創出するため体制整備を行う。

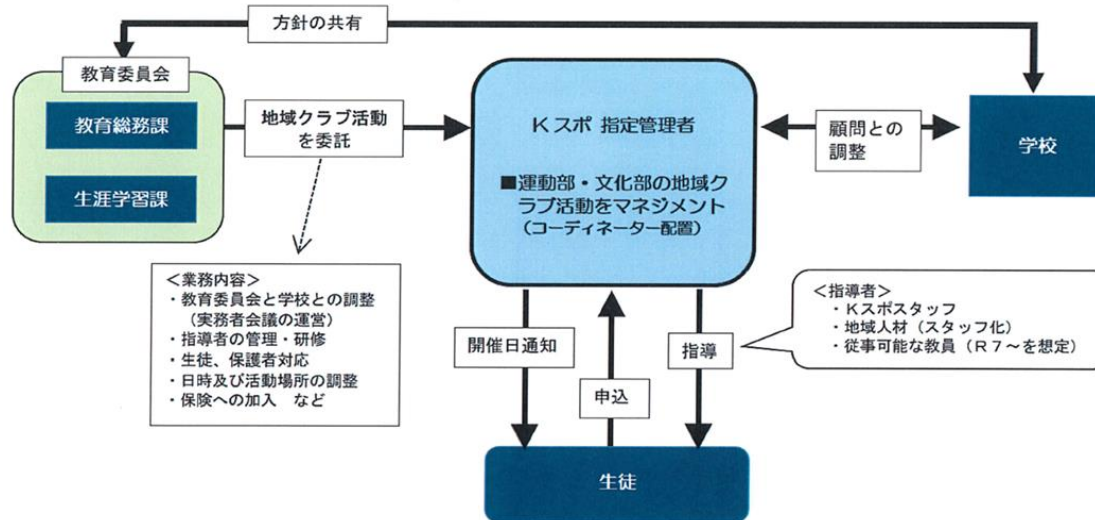
■中学校の生徒数の推移（毎年5月1日現在の数、令和5年度以降は推計）



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

教育総務課：学校との調整

生涯学習課：地域スポーツ・文化芸術団体との調整

◎首長部局

予算措置

公共施設所管課：地域クラブ活動での利用の支援（減免）

年間の事業スケジュール

令和6年5月 学校ヒアリング

令和6年6月 スポネット（※）会議

令和6年6月 スポーツ推進審議会

令和6年12月 スポーツ推進審議会

令和7年1月 スポネット会議
（部活動チーム会議）

令和7年2月 スポネット会議

令和7年3月 スポーツ推進審議会

（※）スポネットとは

「スポーツネットワークかくだ」の略。行政、地域スポーツ関係団体、大学、企業で構成し、（公財）笹川スポーツ財団の支援を受ける地域スポーツコミッション（R3.9登録）。

スポネット内に専門チームとして「部活動チーム」を設け、当該事業の進捗に係る“協議会”として位置付けている。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16 クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		－ クラブ
全体の指導者数	20 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営 団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を 付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 (学年別)	実施 期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費	大会参加方 法
(株)フク シ・エンタープ ライズ	民間	角田中学校 ①サッカー ②水泳 ③男バスケボール ④男ソフトテニス ⑤女ソフトテニス ⑥男バドミントン ⑦女バドミントン ⑧陸上競技(新) ⑨男バレーボール(新) ⑩女バレーボール(新) 北角田中学校 ①男バスケボール ②男ソフトテニス ③女バレーボール ④陸上競技(新) ⑤女バスケボール(新) ⑥女ソフトテニス(新)	週 1 回程 度（休日 の活動）	土日、祝 日につい て、3 時 間／回	角田中学校 3 年 45人 2 年 76人 1 年 82人 計 203人 北角田中学校 3 年 21人 2 年 32人 1 年 31人 計 84人 ※R6新規で移 行した種目につ いては、3 年生 引退後のため 1, 2 年生の み	○数 字 R6.4 ～ R7.3 ●数 字 R7.2 ～ R7.3	平日の部 活動実施 場所と同じ （学校施 設及び市 内スポーツ 施設）	20 人	2 人	なし ※本市では実 証事業期間 （R5～R7） において、学 校部活動に加 えての「新たな 負担を求めない」こととしてい る。	部活動として 参加 ※各種大会へ の参加につい て、「学校」とし て参加するも のは、学校部 活動と整理し ている。

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- + チャレンジ（多様な体験機会の提供） 開催期日：令和6年11月30日（土） 会場：NIKKOアリーナかくだ（角田市総合体育館）
内容：元バドミントン女子日本代表 小椋久美子 氏によるバドミントン教室 参加者：中学生35人、小学生10人

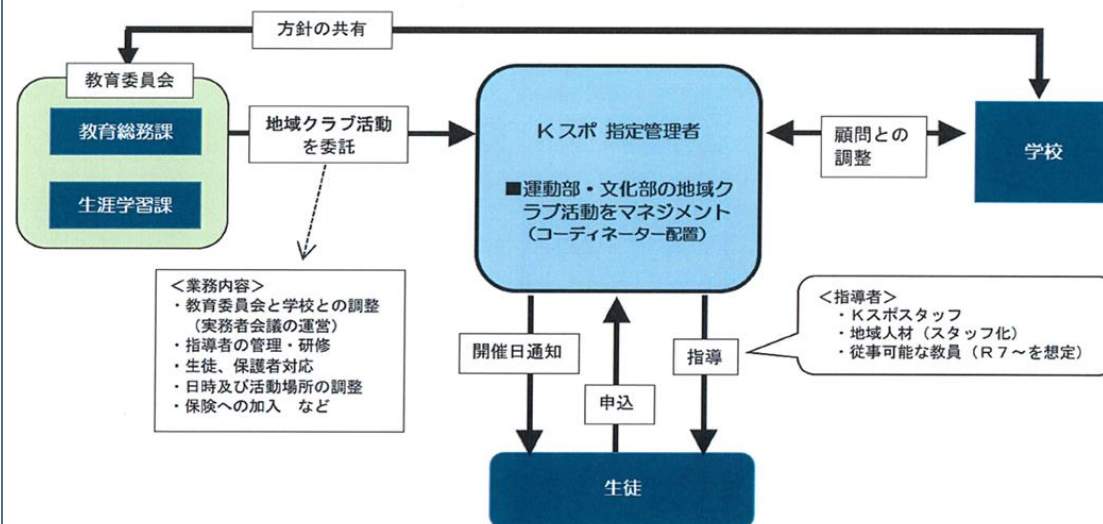
2.実証内容と成果

主な取組例

●（株）フクシ・エンタープライズ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー ほか15種目
運営団体名	（株）フクシ・エンタープライズ
期間と日数	・令和5年度移行10種目：4月1日～3月7日 週1程度 ・令和6年度移行6種目：2月8日～3月7日 週1回程度
指導者の主な属性	（株）フクシ・エンタープライズ正社員及び（株）フクシ・エンタープライズ臨時社員（個別契約）
活動場所	平日の学校部活動場所に同じ
主な移動手段	各自
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

①統括コーディネーター 1名

役割：事業の全体統括を行う

②コーディネーター 1名

役割：統括コーディネーターの補佐を行う

③指導者

各種目の指導者は、専門性及び資質（資格）を有する指導者を派遣する

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

学校ヒアリングを行い、移行する種目の選定は学校の希望を最大限考慮することとし、種目の指導者の確保については、委託先となるかくだスポーツビレッジ運営共同企業体（（株）フクシ・エンタープライズ）の統括コーディネーターと教育委員会において確保を行った。

種目

令和6年度新種目

- ・陸上競技(2)
- ・バレーボール(2)
- ・バスケットボール
- ・ソフトテニス

計6種目

資格有無

- ・種目の指導ができる
- ・スポ少または日本スポーツ協会が認定する指導者資格を有する
- ・宮城県が主催する指導者認定研修の受講

取組の成果

昨年度に引き続き、各種スポーツ教室を展開する事業者である指定管理者（株）フクシ・エンタープライズ）を委託先とする利点を最大限活用し、正社員のインストラクターとして派遣できた。

また、平日の学校部活動で既に指導を行っている部活動指導員、外部コーチについても、可能な限り臨時社員として登録いただいた上で、休日の指導に派遣できた。

いずれも、学校側との調整（校長、教頭及び部活動顧問）及び保護者への周知を経て取り組んでおり、大きな混乱もなくスムーズに移行できた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者との意見交換会

指導者と事務局側の意見交換会を開催することで、指導者が抱える疑問・課題等を共有し、効果的、効率的な運営に資することを目的に開催した。

各種目の指導者から出された要望等を、次年度以降の運営に活かしていきたい。

参加者の声

- ・天候不順等による実施の可否の判断を早くしてほしい
- ・生徒の欠席報告の情報がもっと早くほしい
- ・使用物品の不備（ボール、シャトル等）を改善してほしい
- ・人数が多い種目は、指導者の数を増やしてほしい
- ・任意参加の活動のはずだが、学校部活動の“リ”で参加する生徒へ、どこまで指導（注意）していいのかわからない
- ・大会等への引率について、「学校」として参加する場合は「学校部活動」との取り決めだが、指導した生徒たちが出場する大会へ引率することはできないか

参加実績

- ・開催日時：令和7年2月3日（月） 19：00～20：00
- ・開催会場：NIKKOアリーナかくだ 会議室
- ・参加人数：8人（指導者5人、事務局3人）
- ・内 容：地域クラブ活動における課題などの共有

今後の課題と対応方針

意見交換会で指導者からあった意見等を踏まえ、次年度での対応策を学校とも含めながら、急ぎ検討を要する。

受益者負担、集合部活動等、課題解決に向け、協議会（スポネット部活動チーム会議）等で関係者とすり合わせを行って行きたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

今般の学校部活動の地域移行に際して、角田市スポーツ協会及び加盟協会へ、種目別の説明を行い、指導者の確保に係る協力をお願いしている。

第一義的には、委託先であるかくだスポーツビレッジ運営共同企業体（株）フクシ・エンタープライズ）の社員、または部活動指導員等で平日の指導に関わっている方を臨時社員として派遣する。

各協会においては、地域移行の趣旨をご理解いただきながら、講師の派遣について前向きに参加いただいている。

取組の成果

各協会においては、地域移行の趣旨を理解いただきながら、講師の派遣について前向きに協力いただいている。

移行期間最終年度となる令和7年度についても、各協会、指導者との連絡調整を密にし、スムーズに地域移行が行えるよう取り組んでいく。

バス等の運行実績

教育委員会として、地域移行前と同様に、休日部活動のためのスクールバスの運行を継続している。

バス等の運航経費・収入

市で契約したスクールバスの運行のため、新たな追加経費は計上していない。

今後の課題と対応方針

生徒数が減少し、中学校単位での種目の活動が困難になった場合、いずれかの中学校または別な施設における「集合型の活動」になった場合の生徒の移動の足について、学校、保護者等とも相談していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○実証事業期間（R5～R7）については、中学校で行われている「平日部活動」の単位で、休日の地域クラブ活動への移行を行っている。

○専門のコーチを活動場所（学校施設等）へ派遣している。

○練習方法等については、顧問と情報共有しながら進めており、活動が軌道に乗るまでの間（数か月）は、学校側の協力の下、伴走型で実施している。

○今年度も新たな体験の機会の創出（＋チャレンジ）を実施した。

活動の詳細

参加人数	287 人	指導者数	20 人
属性			
具体的な内容	・専門コーチの派遣 ・学校施設、備品等の使用の許諾 ・スクールバスによる送迎あり ・新たな費用負担は求めない		
子供の声	● 専門的な指導を受けられてよかった（平日も来てほしい）		
関係者の声	● （学 校）教職員の負担軽減になっておりありがたい ● （保護者）専門コーチの指導を受けられて良い ● （指導者）指導そのものに問題は無いが、試合等への帯同などのルール化を		
運営経費	地域移行に際しては、新たな保護者負担なし（全額公費負担）		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

(アンケートについては、現在準備中(近日中に実施予定あり))

○コーディネーターの感想

- ・専門的な指導を受けることに好意的な生徒が多い
- ・顧問の負担は目に見えて改善されている(休日の出勤なし)
- ・中体連の大会及び他校との練習試合に際し、「中学校」として参加する場合は学校部活動として整理しているが、指導者からは「大会への帯同」についても相談が寄せられているほど、熱心に指導いただいている。

○+チャレンジについては、毎年、オリンピックを招聘し、一流選手と触れ合うことができるため好評である。



元バドミントン
女子日本代表
小椋久美子さんの
バドミントン教室

今後の課題と対応方針

(アンケート結果等を参考にしながら)

移行期間の最終年度として、全ての部活動を移行すること、全ての部活動に専門コーチを配置し、練習満足度の高い活動とすることを目的に、指導者の質及び量の確保、練習環境等の整備に努めていきたい。

また、毎年好評の+チャレンジについても、委託先事業者の協力を受けながら、著名な選手の招聘に努めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

地域移行を進めるため、令和5年3月に策定した「角田市における部活動の地域移行推進基本計画」では、基本的な活動場所を“平日部活

動の活動場所とする”こととしている。学校とも活動場所や備品等の使用について許可を受けている。

取組の成果

活動場所や使用物品が変わらないことは、生徒・保護者の困惑も少なく、概ね好意的に受け入れられている。

また、屋外種目の活動については、グラウンド状況等が悪い日（時期）の活動を専用施設（かくだスポーツビレッジ）で実施できるようになった種目もあり、天候に左右されにくい効果的な活動もできるようになった。



角田中学校体育館で活動するバドミントン部

今後の課題と対応方針

既存の部活動の単位で活動できる場合は問題は無いが、生徒数の減少に伴う種目の制限等が発生した場合の活動場所については再考が必要である。（どちらかの中学校に集まるか、専用施設を拠点とするか）

活動場所が現在の場所から変更となることで、生徒の移動の足の問題が発生するため、学校、保護者及びスクールバス等も含めた検討を進めて行く。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

昨年度の10種目に引き続き、令和6年度については、6種目の地域移行を行った。

学校長及び顧問の先生方の理解、委託先事業者の協力によって、当初の計画に沿った進捗ができており、結果的には順調に進められている。

来年度は、実証事業最終年度である。残りの9種目の移行について、まずは指導者及び実施場所の確保に取り組み、地域移行済みの種目を含めた改善に注力していきたい。

また、完全移行後の動きとしては、「受益者負担」及び「中体連等大会への参加」に課題を残す。

これらの課題についても協議会（スポーツネットワークかくだ部活動チーム）での協議、関係者との意見交換を行いながら、持続可能な運営体制とするための取り組みを引き続き行っていく。

●成果の評価

今年度は対象種目が増えたこともあって、委託先に統括コーディネーターに加え、コーディネーター1名を配置してもらった。種目によっては、複数の指導者とやり取りする場面もあるため、体制強化できたことは事業進捗に大きく寄与できた。

また、令和5年度からの継続種目については、一定のスキームができており、安定的な活動を行うことができている。

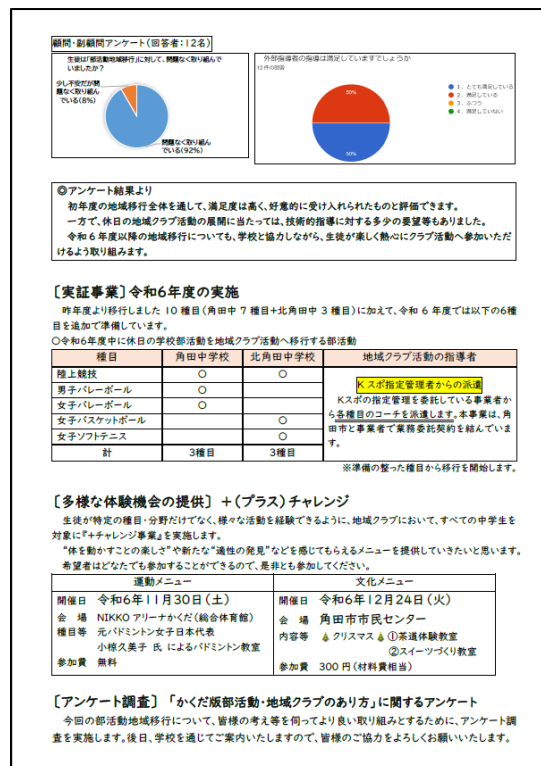
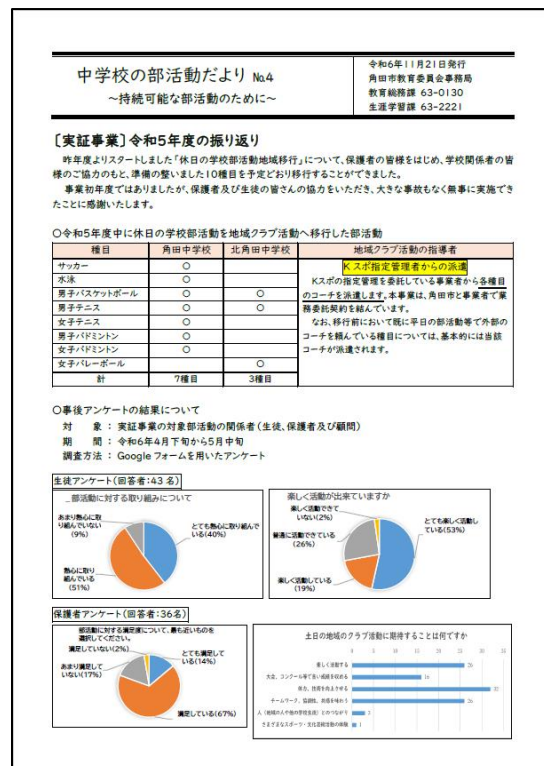
●今後に向けて

引き続き、コーディネーター・学校と協議を重ねながら、令和7年度中の地域移行を完遂することに努めたい。

次年度も実施を予定する「+チャレンジ」については、内容（種目）や開催時期を見直し、より多くの生徒に体験してもらえるように努める。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料



【中学校の部活動だよりNo.4 （R6.11.21発行）】

部活動地域移行イベント

【プラスチャレンジ】

オリンピックによるバドミントン指導

日時：令和6年度11月30日（土）13時集合15時半終了予定
会場：角田市総合体育館 参加費：無料
対象：角田市内中学生
協力：角田市教育委員会 かくだスポーツレジャ
角田市スポーツ協会 角田市スポーツ少年団
持ち物：運動着、上履き、ラケット
申込方法：開催日2週間前までに顧問の先生にお伝えください。
☆☆☆当日のタイムスケジュール☆☆☆

13:00 体育館アリーナ集合点呼
13:10 バドミントンコート準備
13:15 ウォーミングアップ開始
13:45 ウォーミングアップ終了
14:00 小椋さんによるレッスン開始
15:20 レッスン終了および質疑応答
15:30 イベント終了



小椋 久美子 Kumiko Ogura
三重の国観光大使
YONEX アドバイザースタッフ
日本バドミントン協会広報部
1983年7月5日生まれ。三重県出身。
8歳の時、姉の影響を受け地元のスポーツ少年団でバドミントンを始める。中学卒業後、四天王寺高校へ進学。2000年に全国高校総体でダブルス準優勝、2001年の全国高校選抜でシングルス準優勝を果たす。三洋電機入社後の2002年には全日本総合バドミントン選手権シングルスで優勝。その後、ダブルスプレーヤーに転向し、北京オリンピックで5位入賞、全日本総合バドミントン選手権では5連覇を達成。2010年1月に現役を引退。同年3月、三洋電機を退社。現在は解説や講演、子供たちへの指導を中心にバドミントンを通じてスポーツの楽しさを伝える活動を行っている。

お問合せ先：NIKKOアリーナかくた（角田市総合体育館）
TEL：0224-63-3771（担当：佐藤）

【+チャレンジ チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【陸上競技】



【ソフトテニス】



【バドミントン】



【バレーボール】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

地域クラブ活動の段階的な移行

令和4年

推進計画策定

ロードマップ策定

令和5年

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明（地域移
行全体）

令和6年

・学校ヒアリング
・アンケート調査

令和7年

全ての休日部活
動を地域クラブへ
移行

●ステークホルダー

教育委員、学校長、部活動担当教諭

●経過

スポネット会議の部活動チームにおいて検討を重ね、令和5年3月に「角田市における部活動の地域移行推進基本計画」を策定。

●実施にあたって生じた課題

特になし

●実施内容、工夫した点 等

在校生（1～2年生）全員とその保護者、教職員にアンケート調査を実施。チーム会議及びスポーツ推進審議会等の協議を経て策定した。

●ステークホルダー

学校長、部活動顧問、生徒及び保護者

●経過

学校ヒアリング及び教職員への説明会、保護者説明会を実施

●実施にあたって生じた課題

実施場所や方法など、近隣市町村に先駆けて実施したため、保護者や教職員の不安感を払しょくすることに努めた。

●実施内容、工夫した点 等

小学4年生以上の全世帯へ、「中学校の部活動だより」というチラシを不定期で配布し、現状や制度の内容について説明を行った。

●ステークホルダー

学校長、部活動顧問

●経過

学校長とのヒアリングにおいて、「指導者の選任にあつては、学校の希望を優先してほしい」旨の依頼があり、了解した。

●実施にあたって生じた課題

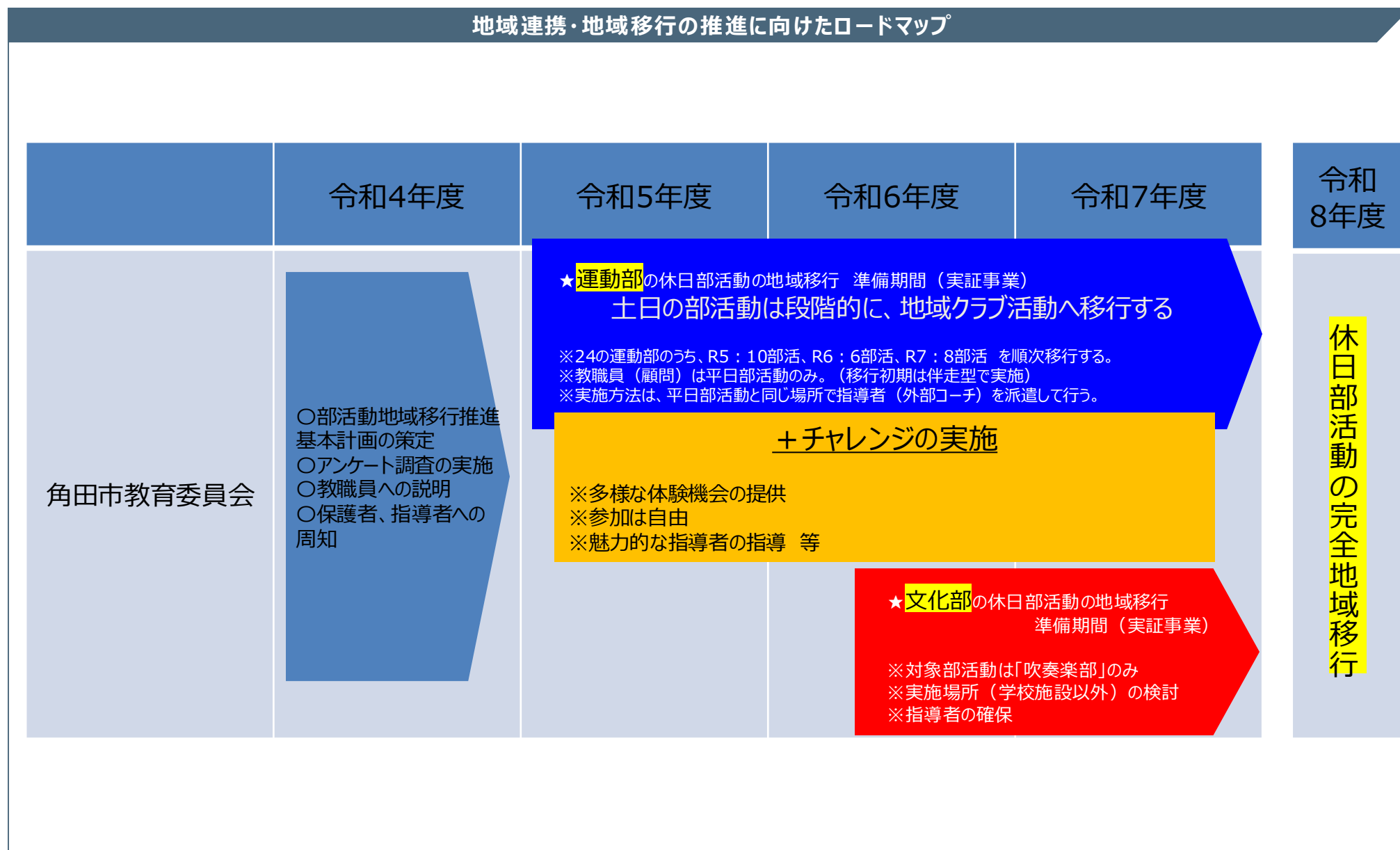
種目毎の専門指導者の確保、配置が遅れた。

●実施内容、工夫した点 等

原則的には、教職員以外の配置を前提とするが、移行最終年度に向け教職員の“兼業”も含め、学校の希望を最大限に尊重することで理解を図る。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮城県 栗原市

自治体名：宮城県栗原市

担当課名：教育部社会教育課

電話番号：0228-42-3514

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	805 km ²
人口	60,518 人
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	1,354 人
部活動数	92 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

ア 中学校数及び生徒数

市内中学校及び義務教育学校合わせて 7 校あり、全ての学校で部活動が設置されており、令和 6 年 4 月時点での生徒数は 1,354 人である。

栗原市の生徒数の現状も、全国的な傾向と変わらず、減少傾向にあることから従来の部活動数の維持が困難となってきている。また、野球やサッカー、バレーボール、バスケットボールなど集団種目を中心に、一つの学校の部員数では、試合の出場選手数を満たさせないため、他校との合同チーム編制や、部員数の減少による廃部や休部によって生徒の選択肢が狭まったりするなどの課題が生じてきている。

イ 部活動数、加入者数及び加入率

栗原市では、令和 5 年度から部活動を任意加入制としているが、単に加入しなくてもよいということではなく、部活動で得られる友人や仲間、社会性や集団行動などを学べるといった側面もあることから、今後も可能な限り部活動への加入を促進していきたいと考えている。

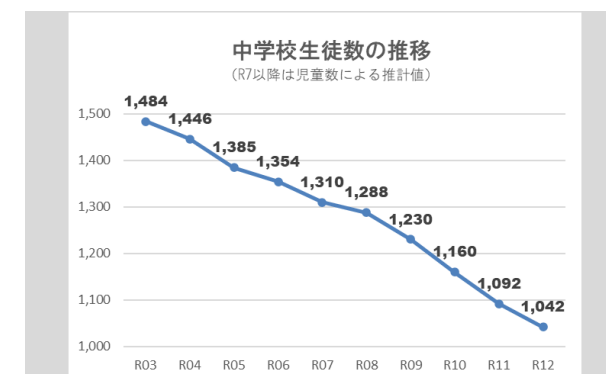
令和 6 年度市立学校に設置されている部活

動数は、運動系と文化系を合わせて 92 部活動であり、部活動加入者数は 1,090 人、加入率 80.6% となっており、既に地域クラブで活動する生徒もいる。

ウ 部活動の活動状況及び指導体制

ほとんどの部活動は平日と休日の両方活動しており、その指導にあつては教職員である顧問が主であり、一部の部活動において外部指導者は居るものの、多くの教職員が休日の部活動指導に携わっている状況である。

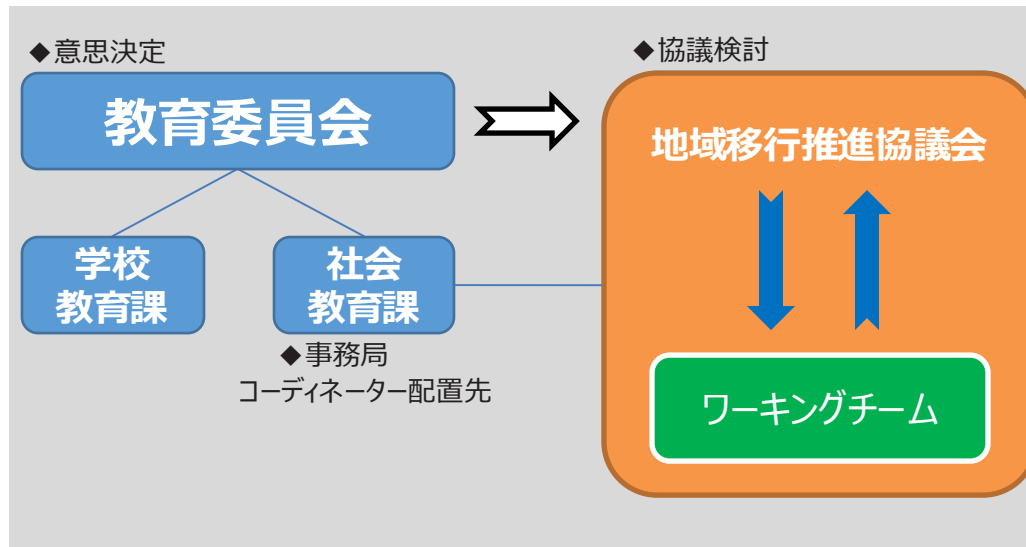
また、令和 6 年度は、3 つの地域クラブが宮城県中体連に登録を行い、中総体へ参加している。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

学校教育課：学校部活動及び部活動顧問、外部指導者に関すること
社会教育課：地域移行及び地域クラブ活動、体育施設に関すること

◎首長部局

学校設置者、予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年8月	地域移行推進協議会 (ワーキング随時)
令和6年12月	コーディネーター採用 実証事業『合同部活動』 (卓球競技) 実証事業『合同部活動』 (剣道競技)
令和7年3月 《今後の予定》	実証事業『合同部活動』 (ホッケー競技) 実証事業『合同部活動』 (バレー競技)

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	6 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
しわひめ スポーツクラブ	総合型 地域 スポーツ クラブ	卓球	1 回	休日午前	—	12月7日	志波姫 公民館 アリーナ	2 人	2 人 (内、兼務ナシ)	無料	—
栗原市 剣道連盟	競技団体	剣道	1 回	休日午前	—	12月22日	築館 中学校	5 人	4 人 (内、兼務ナシ)	無料	—

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ナシ

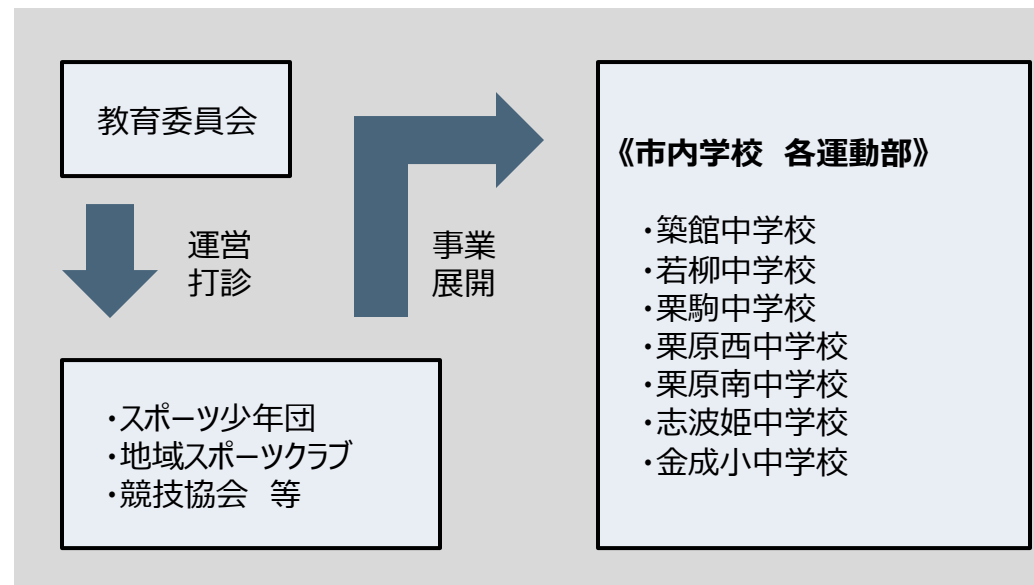
2.実証内容と成果

主な取組例

●実証事業『合同部活動』活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球、剣道
運営団体名	卓球：しわひめスポーツクラブ 剣道：栗原市剣道連盟
期間と日数	卓球：1回 剣道：1回
指導者の主な属性	卓球：スポ少指導者（JSPO公認指導者） 剣道：宮城県警剣道特別強化訓練員 スポ少指導者、連盟有段者
活動場所	卓球：志波姫公民館アリーナ 剣道：築館中学校体育館
主な移動手段	徒歩・自転車・自家用車送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	民間行事保険 生徒・指導者1人あたり：83円/日

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者（兼 主任指導者）

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●指導者

役割：活動において、主任指導者と一緒に指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○コーディネーターに関する取組

コーディネーター（専任者）の配置により、受入可能な地域クラブの洗い出しやマッチング作業を行い、実証事業を行う。また、これらの部活動や既に地域クラブ活動へ先行移行している単一校の部活動に対して、他校の同一種目部活動を加えて、合同部活動として実施する実証事業の企画立案や開催調整も行う。

○責任の主体の明確化に関する取組

地域移行に伴い、初めて中学生を受入れる地域指導者などに向け、中学校生徒指導の考え方やトラブル対応などを記載した、指導者ハンドブックの作成を行う。

取組の成果

コーディネーターとして専任者が配置されたことで、事業が具体化し、見えるものとなったことは良かった。実施回数の少ない実証事業ではあったが、企画段階や運営の課題を探ることが出来、次年度に向けた実証事業募集リーフレットなどの準備も行えた。次年度も、専任者を配置し事業を進めたい。

一方で、採用にあたりコーディネーターのなり手がなく、年度終わりでのコーディネーターの採用となり、当初に計画した地域クラブの洗い出しや学校サイドとのマッチングが出来なかった。また、指導者ハンドブックの作成なども、期間が少なく充分に行えなかった。

次年度は、各学校特に顧問の先生への説明を行い、ニーズを掘り起こしながら事業展開したい。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・『合同部活動』の運営補助
- ・参加者アンケートの実施による意向把握など
- ・ハンドブックの素案作成

今後の課題と対応方針

各競技において、スポーツ少年団指導者など一定程度の指導者はいるが、中学生受入れの経験も無いことから事業参加に至っていない。コーディネーターが企画立案や運営を担い導入部分を進めることで、スムーズに地域指導者が事業参加出来る考えるので、コーディネーター主導による『合同部活動』を実施したい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○世代間交流に関する取組

当市における競技人口の減少が著しい剣道競技において、既存小学校スポーツ少年団を受け皿に、中学校生徒のみの活動から小中高及び社会人を含めた多世代による合同稽古会へ発展させ、活動を持続可能なものとする。

地域指導者の不足解消に対して、合同稽古会により一緒に活動する高校生や若年層の成人競技者が間接的に指導に触れることで、将来の指導者候補となり得るよう取組を行う。

活動の詳細

参加人数	67 人	指導者数	指導者 11人（県警） 指導者 4 人（地域クラブ）
属性			
具体的な内容	①宮城県警察剣道特別強化訓練員講師を中心に、小・中・高校生それぞれの技術レベルや理解度に応じた実技指導 ②築館警察署 生活安全課からのお話し「非行防止に向けて～明日のために～」 ③クリスマス会〈プレゼント交換・ビンゴ大会〉		
子供の声	アンケート結果 ・部活動地域移行についての認知度は「知らない」が6割。 ・休日の部活動が地域クラブや地域指導者による活動が増えることについては賛成が7割近くとなった。 ・技術面の向上、他校や他の団体との活動について、内容については8割以上が良い反応となった。		
関係者の声	活動実証においては、生徒の皆さんの反応は概ね良好で、特に技術指導における満足度が高く、継続する上で地域指導者の確保や育成、資質向上は重要と思われます。また、別競技での実証事業同様に他校の生徒と活動と一緒にすることで新しい刺激となり、更なる向上心が生まれることも期待されると感じました。		
運営経費	・指導者謝礼 ・保険料		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した生徒を対象としたアンケートの結果、部活動で期待するものについては、「目標に向けてやり抜く力を身に着けたい」が25.2%「常に勝利を目指した指導を受けたい」が21.3%となったが、全体的に回答が分散傾向であった。

地域移行の認知度では、「知っている」「よく知っている」が17.7% 「あまり知らない」「全く知らない」が66.1%と多めであった。

休日の部活動が地域クラブや地域指導者による活動が増えることについては、「賛成する」「非常に賛成する」が65.2%で肯定的な意見であった。

休日の部活動を通じた技術向上については、「非常にそう思う」「そう思う」が80.9%ととても役立った様子であった。

他校の生徒と一緒に活動することについて、「非常にそう思う」「そう思う」が82.6%で刺激となり楽しめたとのことであった。

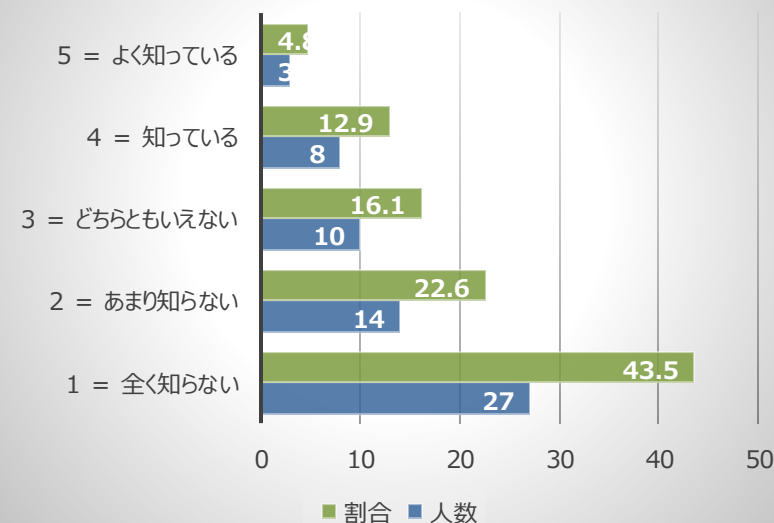
指導内容については、87.3%が「分かりやすく良いものであった」と感じていた。満足度の高さが伺える。

今後の課題と対応方針

アンケート結果から、今回の実証事業においても、部活動の地域移行についての認知度はあまり高いことから、周知の機会を増やす必要があると思われる。

今回の実証事業は、指導者の層も厚いことや、会の運営にも工夫がみられ、組織の受け入れ体制が整っている、と見受けられた。今後も部活動地域移行に向けて様々な部活動での検証を進めて行きたいと考える。

3. 休日（土日、祝日）の部活動の地域移行が進められていることを知っていましたか。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

既に地域クラブ化し、平日も含め独自に運営する団体もあり、市が進める地域移行が、既存地域クラブ活動を阻害しないよう、バランスを図る必要があった。特に、既存部活動が受ける恩恵やサービスを地域クラブでも享受できるルールの再整備が急務であった。

当市においては、既存スポーツ少年団において卒団生が中学校で活動する場が無い（部活動が無い）ことから、自発的に受け皿となっているケースが多かった。そういった指導者が居るチームや団体は、他にも少なからずあり、今後の移行が見込まれる。

地域クラブサイドの掘り起こしと、学校サイドのニーズ把握によるマッチング作業や指導者ハンドブック作成など、今年度充分とは言えない部分が多く、実施方法に課題を残した。

●成果の評価

既存地域クラブサイドの要望に可能な限り応えており、市内中学生が部活動、地域クラブとの所属の違いで不公平が生じないようルールを統一化出来たことは良かった。

著しい少子化により、単一校での部活では存続も危ぶまれる中、合同部活動を主軸に今後の部活動を展開する方式に活路を見出すことが出来た。

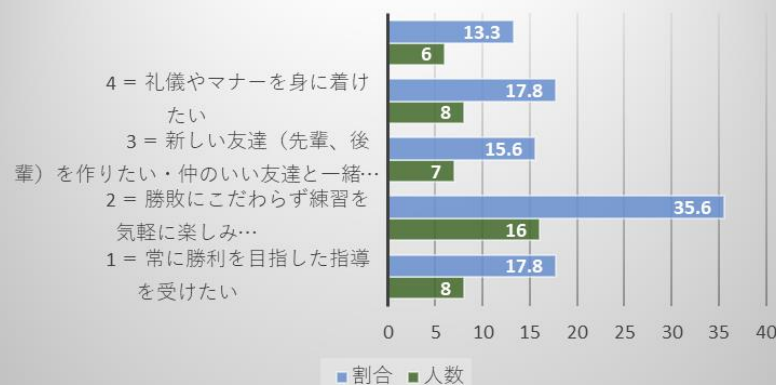
●今後に向けて

生徒数の著しい減少、当然ながら現役世代も少なく、指導人材そのものも少ないため、既存指導者への啓発を行いながら、既に地域クラブ化した団体や先行事例を参考に引続き、取組む団体や種目を増やしていきたい。

アンケート結果・参加者の声

●合同部活動（卓球競技）アンケート結果

1. 部活動で期待するものは何ですか。



2. 休日（土日、祝日）の部活動の地域移行が進められていることを知っていましたか。



3. 休日（土日、祝日）の部活動は地域クラブや指導者による活動が増えることに賛成である。



4. 平日は所属する部活動、休日は別な種目の部活動をしてみたい。



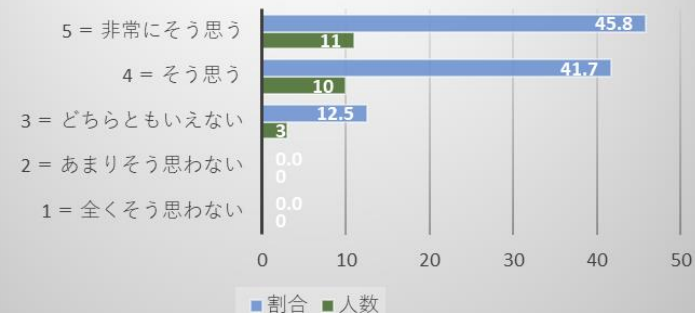
アンケート結果・参加者の声

●合同部活動（卓球競技）アンケート結果

5. 今回の合同部活動は、私の技術向上に役立ったと思う。



6. 他校の生徒と一緒に活動することは、新しい刺激となり楽しかった。



7. 地域指導者の指導者は、分かりやすく良いものであった。



実証事業『合同部活動』指導者募集資料

令和6年度栗原市地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の部活動地域移行実証事業「合同部活動」指導者 募集要項

1 事業の目的

休日の学校部活動を地域に移行する取組みを進めるにあたり、市では生徒数の減少により、単一校での部活動運営が困難な状況の中、地域の協力を得ながら、複数校が合同で実施する部活動を支援し、その活動経費の一部を予算の範囲内で助成します。この実証事業を通じて、持続可能な部活動の形を模索するとともに、地域移行に伴う課題の把握と解決策の検討を進めることを目的としています。

2 募集対象

市スポーツ少年団に所属する単位団、市スポーツ協会に加盟する競技団体、市内スポーツクラブ等の団体（以下「地域クラブ」という。）及び市立学校部活動外部指導者並びにスポーツ指導者（以下「地域指導者」という。）で、学校・教育委員会と連携し、合同部活動等を実施する意向のある団体・個人を募集します。

3 事業の概要

実施期間：2024年12月～2025年2月

参加対象校：市内中学校

対象競技：陸上、水泳、バスケットボール、サッカー、軟式野球、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ソフトボール、柔道、剣道、相撲、ホッケー

実施方法：複数校による合同部活動（近隣、市外団体、多世代の団体が加わることも可）

4 実証事業の要件

実証事業を行う場合は、以下の要件を満たす必要があります。

- ・指導者を含め、4人以上での活動とします
- ・指導者は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有している方、または同等の指導者資格を有している方にしてください
- ・指導者は、概ね3年以上の指導経験（年代は問わない）がある方にしてください
- ・指導者及び参加者は、全員スポーツ安全保険等の保険に加入してください（費用補助有り）
- ・移動については、徒歩・自転車・自家用車送迎等、保護者の責任でお願いします

5 応募方法

- 参加希望の地域クラブ・地域指導者は、事前に教育部社会教育課へ相談のうえ、下記内容が網羅された実施計画書（様式自由・開催要項等でも可）を提出してください。
 - ◎実施主体の概要（団体名、設立年、事業内容、活動実績等）
 - ◎指導者の情報（指導者の資格や経験、指導体制）
 - ◎合同部活動の実施計画（具体的な活動内容、練習日程、場所等）
- 提出された計画書に基づき、当該で学校とのマッチングを行い、実施の可否をお伝えします。

6 実施報告

地域クラブ、地域指導者が主体となり実施していただきます。

・活動場所は、市の所管施設とします。（利用料は免除となります）

事業終了後、実績報告（様式自由）を行ってください。

◎実績報告書（活動写真を添えて、実施内容を報告）

◎参加者名簿（指導者及び参加生徒）

◎保険加入状況（保険加入が分かる書類）

7 対象経費

実証事業実施団体へ実施謝礼をお支払いいたします

①指導者謝礼：一指導者あたり1時間1,600円（1日最大3時間まで）

※チームスタッフは謝礼対象外

②保険料：加入に要した保険料実額及び払込料

③消耗品代：実証事業に要するものに限り

なお、予算に上限があるため、すべての経費を支払い対象とできない場合には、予めこちらで調整を行わせていただきます。

8 問合せ先

実証事業に関する質問や不明点については、下記の担当までお問い合わせください。

【担当部署】栗原市教育委員会 社会教育課 スポーツ推進係

【電話番号】0228-42-3514

【E-mail】shakaikyoku@kuriharacity.jp

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【卓球合同部活動_合同練習】



【卓球合同部活動_審判講習】



【剣道合同部活動_指導風景】



【剣道合同部活動_安全講話】

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ[○]

